

# 峰ヶ丘会報

題字 宇田 靖 会長

第162号 2024 (令和6). 11. 10



ヒストリカルゾーンとして周辺整備が進められている峰ヶ丘講堂と旧書庫

## CONTENTS

「農学部創立100周年」記念式典・講演会・祝賀会	2
会長挨拶	3
副会長挨拶	3
理事長就任挨拶	4
新入生歓迎会	4
退職のご挨拶	5
新任教員のご挨拶	6
追悼	7
支部総会	12
教員海外学会	14
クラス会	15
令和6年度理事会報告	20
支部長意見交換会議録	22
宇都宮大学農学部 創立百周年記念誌を追加販売	23
支部長一覧	25
お悔やみ	25
決算書・予算書	26
お祝い・寄贈図書	27
編集後記	27
こんなことやっています	28



**MINEGAOKA NEWSLETTER No.162**  
 The Alumni Association  
 Faculty of Agriculture  
 Utsunomiya University  
 Utsunomiya 321-8505 Japan  
 E-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp



スナップ写真でみる

「農学部創立100周年」  
記念式典・講演会・祝賀会



山根 健治 農学部長の式辞



池田 宰 学長のご挨拶



物故者追悼 弔辞を述べる、宇田 靖 会長

祝辞



文部科学省専門教育課企画官  
森 次郎 様の祝辞



栃木県副知事  
北村 一郎 様



福島県伊達市長  
須田 博行 様



栃木県芳賀町長  
大関 一雄 様

記念  
講演会



基調講演  
杉田 昭栄 名誉教授



ななくさ農園  
関 元弘 代表



謝 肖男 准教授



株式会社オリゼ  
小泉 泰英 代表



森のハーブ弾き お話と演奏  
阿久津 瞳 様

記念祝賀会



祝辞を述べる  
石田 朋靖 前学長



100周年記念シンボルマーク作品の表彰式  
新保 怜奈 様(右)  
農学部長 山根 健治 教授(中央)  
実行委員会委員長の齋藤 高弘 教授(左)



100周年記念 親子三代表彰  
杉田様(左)、橋本様(右)、宇田 靖 会長と一緒に



乾杯の音頭をとる  
大塚 国一 副会長



100周年記念祝賀会の最後に  
万歳三唱



100周年記念祝賀会の最後に  
参加者の皆様と一緒に記念撮影



峰ヶ丘同窓会支部長意見交換会



宇都宮大学オリジナルグッズ販売



## 会長挨拶

峰ヶ丘同窓会会長

宇田 靖 (昭45化卒)

峰ヶ丘同窓会会員の皆様、お元気で過ごしてはいかがでしょうか。

昨年11月、農学部創立100周年の記念式典並びに祝賀会が盛大に開催されました。記念式典の物故者追悼のところで申し上げましたが、この100年の間、高等農林学校及び農林専門学校の卒業生は併せて3,240余名、新制農学部の卒業生は16,460余名を数え、2,600名を超す大学院修士課程、博士課程修了者を合わせて2万2千名を超える同窓生が峰ヶ丘から巣立っていきました。やはり、創立100周年という年月の重みは大きく、峰ヶ丘同窓会では本年度の事業計画の中に100周年関連事業として、記念碑の設置と記念植樹（候補樹木：日光紅姫桜）、そして大学が計画中の旧講堂、旧高農図書館書庫の石蔵を含む、ヒストリカルゾーン整備事業に協力することを盛り込んだところであります。この事業計画は去る6月15日に開催された理事会におきましてご承認をいただきましたので、早速、記念碑の

設置事業と記念植樹に取り掛かることとしています。また、昨年まで継続してきました学生への経済的支援として、附属農場や生協食堂と協力して安価で美味しい昼食の提供などの学生支援を行うことにしています。

峰ヶ丘同窓会の会員同士のつながりを維持し築いていく上で会員名簿は大変大きな役割を持っていますが、冊子体の形としては昨年9月に発行された令和5年版が最後になりました。今後は、電子媒体での管理に移りますが、具体的な運用をどうするか、いろいろな課題に直面しています。まずは、会員の皆様には住所などの連絡先の変更の際には、できるだけ速やかに同窓会事務局宛にご一報くださいますようお願いいたします。

母校、宇都宮大学は、今年度から6番目の学部として“データサイエンス経営学部（学生定員55名）”が加わり、一段と教育研究分野が拡大されました。この中において、農学部は現状5学科（生物資源科学、応用生命化学、農業環境工学、農業経済学、森林科学）にて850余名（本年度の入学者数は214名）の学生が学んでいます。コロナ感染症の拡大も落ち着き、キャンパスには多くの学生の姿が見てとれます。地方国立大学法人の財政事情は大変厳しさを増しているようですが、これからも地域はもとより、国内、そして世界へと多くの知見を発信して行ってほしいと期待しています。



## 副会長挨拶

峰ヶ丘同窓会副会長

杉本 宏之 (昭59院畜卒)

「私でいいのか？」という自問はありつつ、この度副会長という要職に就かせていただくこととなりました。よろしくお願いいたします。

宇都宮大学農学部との付き合いは、昭和57年4月の大学院入学に始まります。

酪農という職業へのあこがれもあり、大学は帯広畜産大学に進んだのですが、家庭の事情で栃木に戻らざるを得ず、酪農とは直接関係のない職場に就職しました。

しかし、専門分野で生きていきたい、もう少し勉強をしたいという思いもあって、宇都宮大学の大学院に進学。家畜飼養学（久保先生）の研究室で、鶏糞を乾燥させることなく生糞のままどうやって熱量を測定するかというテーマに勤しみ(?)ました。正直なところもう少し現場に近い研究をしたかったのですが、他の院生のテーマを見ても、久保先生の研究志向は基礎的なところにあったような

気がします。

それから早40年以上が経過し、当時の先生方も多くは退官を迎え、これまで何人かの先生の最終講義を聞く機会がありましたが、私が在籍していた当時よりもさらに研究内容が高度化・専門化し、内容を理解できない自分に逆に驚きました。

「選択と集中」。国や地方の財政が厳しくなる中、大学も例外ではなく「競争的資金」の名の下で、現場に近い研究よりも“アカデミック”な研究を求められているのでしょう。数年前のことです。知り合いがある大学の教員に採用されながら、半年もしないうちにやめてしまいました。本人は現場に近いところでの研究をしたかったのですが、採用後に、「もっと最先端の研究をなさい」と上層部から言われたことが辞めた理由の一つだそうです。

農学部の研究方針には「現場で役に立つ研究、地域社会に還元できる研究から世界最先端の研究まで、広範囲な課題に取り組んでいます。」とあります。「世界最先端の研究」も必要でしょう。しかし農業県である栃木県にあるからこそ「現場に役立つ研究、地域社会に還元できる研究」が宇都宮大学にはより求められるのかなと思っています。

農学部へのそんな期待を述べさせていただき、就任の挨拶とさせていただきます。





## 理事長就任挨拶

峰ヶ丘同窓会理事長  
生物資源科学科

房 相佑 (平5院農卒)

同窓生の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年7月より峰ヶ丘同窓会理事長を仰せつかりました生物資源科学科植物育種学研究室の房 相佑(ばん さんう)でございます。平成元年に来日し東京での1年間の語学研修を経て、平成2年2月に農学研究科の研究生として入学して以来、35年間農学部峰ヶ丘に巣ごもりしております。時の流れは早いものでもう峰ヶ丘を巣立ちするまで残り2年半となっており、最後に恩返しの機会と思ひ微力ではございますが大役をお引き受けました。

さて、昨年11月には2年越しの「農学部創立100周年」記念式・祝賀会を盛大に開催することができました。これもひとえに同窓生の皆様の心温かいご支援とお力添えの賜物であると存じます。この場をお借りし深く感謝申し上げます。記念式に先立ちまして全国の支部長様をお招きし各支部の現在の状況を伺ったところ共通課題の一つとして支部会に若い世代の新入会員が少なくなっているとのことで

した。支部長様からは各県に就職する卒業生のリストを同窓会本部から情報提供してほしいとのことでしたが、個人情報保護の面で悩ましいところがございます。今後、常任理事会において支部会のご活動をサポートできるアイデアを考えたいと思います。また、「農学部創立100周年」記念碑の件ですが、大学本部側の旧図書館の保存に対する考え方が二転三転しておりましたが、本年の学園祭(創立記念日)の頃には設置工事に着手するスケジュールで大学と調整しております。記念植樹の品目も大久保前理事長のご尽力で「日光紅姫桜」に決まりました。この系統は創立80周年の記念樹である「思川」の生みの親でもある桜研究家の久保田秀夫様によって育成されたそうです。そこで、農学部のグリーンスペースに「思川」が大きく成長しておりますので「日光紅姫桜」もあわせて宇都宮大学のもう一つの名所にしたいと考えております。

峰ヶ丘同窓会の同窓生は日本のみならず、韓国をはじめ、中国、モンゴル、タイ、インドネシアなど国際的に活躍しています。そこで、韓国の宇都宮大学留学生会を峰ヶ丘同窓会の海外支部会にすることを皮切りとして峰ヶ丘同窓会のグローバル化を目指したいと存じます。末筆で大変恐縮ですが、今後とも同窓生の皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、同窓会会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。まとまりのない文書で大変恐縮ですが就任のご挨拶に代えさせていただきます。

## 新入生歓迎会

新型コロナウイルスによるパンデミックの前までは、入学ガイダンス開催日に合わせて、全学科の新入生が集まり、教員や先輩たちと大学生協で会食をしながら親睦を深めておりました。今年度からは、従来の開催方法ではなく、学科ごとに開催されることになりました。今年度は、以下のような内容で開催されました。

学 科	実 施 日	内 容
生物資源科学科	2024年4月4日	大学生協での会食
応用生命化学科	2024年4月8日	学内で昼食会
農業環境工学科	2024年4月12日	大学生協で会食
農業経済学科	2024年5月24日～25日	日光自然ふれあいハウスでの合宿(厚生補導)
森林科学科	未実施(10月に開催予定)	演習林での昼食会



(生物資源科学科)



(応用生命化学科)



(農業経済学科)

## 退職のご挨拶



生物資源科学科 植物栄養・肥科学分野  
関本 均

まだ若かりし30代はじめ、私は民間企業で肥料・農薬の開発研究に携わっていました。その後、縁あって宇都宮大学農学部で教鞭を執ることになりました。当時はかなり珍しいキャリアでした。民間から国家公務員（文部教官）に。企業における研究は、営業から上がってくる課題対応もあり、どうしても単発の研究課題になりがちです。主任の先生から薫陶を受け、一つのテーマにじっくり取り組み、大きく育てていくという経験はありませんでした。そのため、大した研究業績が残せなかったことが残念です。

絵画みたいな論文を書いてみたい。ずっとそう思っています。「しっかりとしたモチーフ（背景・目的）、巧みな時間・空間の切り取りと構図（方法）、効果的な光と色、表現者の思いを伝える人物や風景の表情（データと考察）、そして、みる人を魅了して後世に残る」。そんな論文を書きたいと思っていました。しかしながら、思い通りにはいきませんでした。

化学肥料の登場で、食料生産性と労働生産性（コスパとタイプ）が爆発的に上がりましたが、安易に使用されて環境問題や社会的格差を招きました。その反省として、有機農業などのコスパやタイプが決してよくない農業生産が見直されています。しかし、コスパとタイプがよい生産システムを捨てることもできません。有機物の利用を十分に図りながら、化学肥料を賢く使うことがベターでしょう。ヒトにはそれぞれに「生のリズム」があって、過度にコスパとタイプを求めて走り続けることは、それを崩して疲弊します。テキトーがいいんです。そして「不便益」を知ることが大切です。農学は「余白（ゆとり）のチカラ」も身につく学問です。こんなことを肥料学の授業で話していました。

学生・教職員・卒業生の皆さまに支えられて30年。衣・食・住に関わる生物生産の総合科学「農学」とともに過ごせて幸せでした。ありがとうございました。

## 退職のご挨拶



附属演習林 演習林研究室  
飯塚 和也（昭58林卒）

平成14年（2002年）に母校である本学に着任以来、22年間お世話になり定年を迎えることになりました。2001年以前の19年間は林野庁と林木育種センター、その間、JICAの派遣職員として、ラテンアメリカのパルー、チリ、ウルグアイで計2年半の間勤務しました。国内では、東京、北海道、茨城で勤務して、その間、稚内から西表島まで出張しました。宇大に赴任後2011年に発生した東日本大震災以前に、学生たちと2度タイに行く機会に恵まれました。大震災以降は、多くの方々の御指導・アドバイスを受けながら、放射線・放射能に関する業務に従事し、多くの研究者とともに福島で調査する機会もありました。

宇大に着任した当初は、フモトミズナラと少花粉スギ品種の関する研究に挑戦し、両樹種の試験地を数カ所設定することができました。特に、少花粉スギ品種に関しては栃木県と共同研究を行い、成長、材質等のテーマで7名の学生が卒論研究に取組みました。成長初期段階ですが材質調査を行うまでに、植栽後10年の歳月が経過しました。しかしながら、自分で設定・植栽した試験地のスギを家系ごとに伐採し、基礎的材質調査が実施できたことは、演習林教員冥利に尽きます。

本学は、全国でも数少ない直営生産（職員が樹木を伐採・造材・販売）を行っている演習林です。人工林のスギとヒノキの素材生産を実施していますが、自分が林野庁時代、最初の現場が北海道の占冠村の製品事業所（樹木の伐採・販売）であり、樹高20m以上の立木の伐採現場は、お気に入りの空間でした。

最後になりますが、多くの人々にお世話になりながら、ここまで来ました。最終講義のとき、自分は学生や演習林職員らに支えられ大学生活を過ごしていたことを痛感し、幸せに浸りました。この紙面をお借りしまして、皆様からお礼申し上げます。宇都宮大学の益々の発展を祈念して退職の挨拶といたします。本当に有難うございました。

## 退職のご挨拶



森林科学科 森林生態学・育林学研究室  
大久保達弘 (昭57林卒)

宇都宮大学を退職するにあたって、関係者の皆さまに心からの謝意を表したいと思ひます。大学、研究生として5年間(1,826日)、教員として38年11ヶ月(14,200日)計42年11ヶ月(16,026日)を宇都宮大学、特に農学部林学科と森林科学科で無事に過ごすことができました。俳人松尾芭蕉は“百代(はくたい)の過客(かかく)”(永遠の旅人)という名言を残しています。森林の時間は長く人の一生の数倍、人は森林の変化(遷移)のほんの一断面を見ているに過ぎません。森林の教育研究の旅はまさにこの言葉に尽きます。

大学院生の時(25歳)に設置した秩父山地のイヌブナ林の永久生態調査区は今年40年を迎えました。長い観察期間でシカ食害とズズタケの一斉開花によるブナ林の林床植生の変化に遭遇することができたのは、学生、同僚や研究仲間と一緒に同じものを観つづけ現場で議論したからだと思ひます。“Study Nature Not Books”の精神は重要だと感じました。30歳代(1990年代)前半からマレーシア・サラワク州の熱帯雨林の長期動態研究に参加しましたが、この時期は国連環境会議(1992年)が開かれ森林が地球環境問題に直結する事が広く知られた時期でした。そこでの経験がその後のタイや中国南部の森林での生態系修復研究にもつながりました。50歳頃、名古屋で開かれた国連生物多様性条約締約国会議(CBD-COP10)(2010年)に向けた那珂川流域の里山評価が始まり、那須烏山市大木須で農学部附属里山科学センターのプログラムに参加しました。この頃から、森林の生態研究は、人との関わりを排除してはいけないとの考えに変わりました。2011年に東日本大震災とそれに続く原子力災害が、栃木県の里山にも深刻な影響を与え、これ以降定年までの間、腐葉土原料の落葉、しいたけ原木栽培用のナラ類の樹体を中心に放射能環境モニタリングを続けてきました。

最後の約7~8年で特に印象に残ったことは恩返しの気持ちでお手伝いを始めた宇大生の海外送り出し支援でした。自身が初めての海外調査で英語コミュニケーションに苦勞しながら鍛えられたマレーシア・サラワク州で、海外初体験の宇大生に英語環境、多文化共生を是非体験してほしいとの思いがありサラワク大学で全学海外英語研修として実施していただいています。4月より芭蕉の立寄った山形県新庄市の新設大学(東北農林専門職大学)で新たな教育研究をスタートさせました。今後とも宇大農学部を少しでも後方から応援できればと思ひています。大変お世話になり誠にありがとうございました。

## 新任教員のご挨拶



おがわ まさゆき  
小川 真如

所属・職種：農学部 農業経済学科  
助教  
専門：農業経済学

2023年11月に農学部農業経済学科に助教として着任いたしました小川真如と申します。

島根県益田市で生まれ育ち、地元の高校を卒業後、東京農工大学に入学し、修士課程まで進学しました。その後、(公社)全国農業共済協会に勤務した後、早稲田大学大学院に進学し、博士号を取得しました。(一財)農政調査委員会での研究を経て、宇都宮大学助教として教育・研究に携わる機会をいただきました。

私の専門分野は、農業経済学です。学部生時代から、堆肥を用いた稲発酵粗飼料用稲の栽培など、資源循環型の食料生産システムについて、農業経営学や農政学の観点から分析を行ってきました。現在は、国内各地を調査対象とし、主に水田農業経営や、各種施策の効果・影響など調べながら、現場実態に基づいた政策提言などを行っています。また、日本の農学や農業経済学の特徴にも関心があり、とくに水田農業が学問に及ぼした影響についても研究を進めています。

教育面では、もともと、専門である農業経済学分野ではなく、広尾看護専門学校での医学・看護学論文の読み方を教えたり、東京女子大学で離散数学を教えたりしてキャリアをスタートしました。また、コーポレート・ファイナンスや、健康管理入門など、他分野の教育にも携わってきました。こうした経験を踏まえて、学生に幅広い視点からの解釈や情報提供などをしてきました。

着任してから半年ほどが経ち、宇都宮大学農学部の学生の素質の高さに驚かされる日々が続いています。教員が障害要因となって学生の成長の妨げとならないよう、多様な成長をサポートできる能力の維持・向上に向けて、日々邁進してまいります。

まだまだ未熟ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 退職のご挨拶



森林科学科 森林生態学・育林学研究室  
大久保達弘 (昭57林卒)

宇都宮大学を退職するにあたって、関係者の皆さまに心からの謝意を表したいと思ひます。大学、研究生として5年間(1,826日)、教員として38年11ヶ月(14,200日)計42年11ヶ月(16,026日)を宇都宮大学、特に農学部林学科と森林科学科で無事に過ごすことができました。俳人松尾芭蕉は“百代(はくたい)の過客(かかく)”(永遠の旅人)という名言を残しています。森林の時間は長く人の一生の数倍、人は森林の変化(遷移)のほんの一断面を見ているに過ぎません。森林の教育研究の旅はまさにこの言葉に尽きます。

大学院生の時(25歳)に設置した秩父山地のイヌブナ林の永久生態調査区は今年40年を迎えました。長い観察期間でシカ食害とズズタケの一斉開花によるブナ林の林床植生の変化に遭遇することができたのは、学生、同僚や研究仲間と一緒に同じものを観つづけ現場で議論したからだと思ひます。“Study Nature Not Books”の精神は重要だと感じました。30歳代(1990年代)前半からマレーシア・サラワク州の熱帯雨林の長期動態研究に参加しましたが、この時期は国連環境会議(1992年)が開かれ森林が地球環境問題に直結する事が広く知られた時期でした。そこでの経験がその後のタイや中国南部の森林での生態系修復研究にもつながりました。50歳頃、名古屋で開かれた国連生物多様性条約締約国会議(CBD-COP10)(2010年)に向けた那珂川流域の里山評価が始まり、那須烏山市大木須で農学部附属里山科学センターのプログラムに参加しました。この頃から、森林の生態研究は、人との関わりを排除してはいけないとの考えに変わりました。2011年に東日本大震災とそれに続く原子力災害が、栃木県の里山にも深刻な影響を与え、これ以降定年までの間、腐葉土原料の落葉、しいたけ原木栽培用のナラ類の樹体を中心に放射能環境モニタリングを続けてきました。

最後の約7~8年で特に印象に残ったことは恩返しの気持ちでお手伝いを始めた宇大生の海外送り出し支援でした。自身が初めての海外調査で英語コミュニケーションに苦勞しながら鍛えられたマレーシア・サラワク州で、海外初体験の宇大生に英語環境、多文化共生を是非体験してほしいとの思いがありサラワク大学で全学海外英語研修として実施していただいています。4月より芭蕉の立寄った山形県新庄市の新設大学(東北農林専門職大学)で新たな教育研究をスタートさせました。今後とも宇大農学部を少しでも後方から応援できればと思ひています。大変お世話になり誠にありがとうございました。

## 新任教員のご挨拶



おがわ まさゆき  
小川 真如

所属・職種：農学部 農業経済学科  
助教  
専門：農業経済学

2023年11月に農学部農業経済学科に助教として着任いたしました小川真如と申します。

島根県益田市で生まれ育ち、地元の高校を卒業後、東京農工大学に入学し、修士課程まで進学しました。その後、(公社)全国農業共済協会に勤務した後、早稲田大学大学院に進学し、博士号を取得しました。(一財)農政調査委員会での研究を経て、宇都宮大学助教として教育・研究に携わる機会をいただきました。

私の専門分野は、農業経済学です。学部生時代から、堆肥を用いた稲発酵粗飼料用稲の栽培など、資源循環型の食料生産システムについて、農業経営学や農政学の観点から分析を行ってきました。現在は、国内各地を調査対象とし、主に水田農業経営や、各種施策の効果・影響など調べながら、現場実態に基づいた政策提言などを行っています。また、日本の農学や農業経済学の特徴にも関心があり、とくに水田農業が学問に及ぼした影響についても研究を進めています。

教育面では、もともと、専門である農業経済学分野ではなく、広尾看護専門学校での医学・看護学論文の読み方を教えたり、東京女子大学で離散数学を教えたりしてキャリアをスタートしました。また、コーポレート・ファイナンスや、健康管理入門など、他分野の教育にも携わってきました。こうした経験を踏まえて、学生に幅広い視点からの解釈や情報提供などをしてきました。

着任してから半年ほどが経ち、宇都宮大学農学部の学生の素質の高さに驚かされる日々が続いています。教員が障害要因となって学生の成長の妨げとならないよう、多様な成長をサポートできる能力の維持・向上に向けて、日々邁進してまいります。

まだまだ未熟ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 追悼

## 和賀井睦夫前会長を偲ぶ



和賀井睦夫会長におかれましては、令和4年11月27日に逝去されました。ここに謹んで哀悼のまことを捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

和賀井会長は、昭和25年に旧制農学科をご卒業され、栃木県の農業行政、農業振興公社、県人事委員会などで要職を務められました。平成12年から峰ヶ丘同窓会の活動に参画され、平成18年から平成29年までの6期12年間を峰ヶ丘同窓会会長として諸課題の解決に取り組み私たちを先導されました。

当時、大学当局からフランス式庭園、旧講堂などの一体的な保存・利用計画が示されました。この計画は、旧講堂をはじめ全学に散在している部室・サークル用の部屋を課外活動施設として運動場北側に新設し、その後、旧講堂の改修工事を進めるといものでした。これらの工事には多額の予算を要し、多くは寄付に依存するものでした。峰ヶ丘同窓会は計画の趣旨に賛同し、皆様のご協力によって応分の寄付を達成することができたのです。

「宇都宮大学庭園」は「登録記念物」として平成29年に、また「峰ヶ丘講堂」は平成20、21年の改修をへて、同じく「登録有形文化財」として文化庁の指導をうけ今日に至っており、貴重な景観スポットにもなっています。この旧講堂保存計画は、和賀井睦夫会長が先導された、峰ヶ丘同窓会の歴史的な事業であると思います。

峰ヶ丘講堂の周りには今では珍しくなってしまった樹木が多く植えられています。庭園、講堂、ロックガーデンなどを含む景観は、今や宇都宮大学のかげがえのない遺産であり、永く後世に受け継がれることでしょう。

(昭41農卒 松澤 康男)

## 追悼

## 久保辰雄先生を偲ぶ



久保辰雄先生は令和5年3月20日永眠されました。4月生まれでしたので90歳を目前にした89歳でした。

昭和46年10月に、農林省畜産試験場(現 農研機構畜産研究部門)から家畜飼育学研究室に助教授として着任されました。前任者である西山太平先生は畜産経営に関する調査研究をされていたので、久保先生の専門分野である家畜の栄養に関する化学的手法に必要な設備は冷蔵庫とGEの冷凍庫ぐらいしかありませんでした。久保先生は着任早々、実験用作業台、実験器具の乾燥棚(写真、2015年撮影)、鶏の飼育箱などを手作りされました。私を含め卒論学生3人も大工仕事を手伝いました。また、先生は蒸留装置や試験管などをガラス細工で作製され、徐々に実験設備を整えていかれました。



先生は着任された当初から牛の胃の中にいるプロトゾアの研究を始められ、これを胃の内容物から分離し試験管で単独培養することを目指していました。当時はプロトゾアの研究手法としてポピュラーなものでしたが、かなり手間暇がかかる方法でした。先生は休日でも餌やり、培養液の交換、観察、顕微鏡下での計数などを続けていらっしゃいましたが、恒温水槽の温度変化や培養液に流す二酸化炭素の漏れなどでうまく行きませんでした。先生には心残りだったと思います。

先生はお酒をそれほど召し上がりませんでした。指導学生を自宅に招いて奥様の手料理でもてなしていただきました。また、研究室旅行で夏休みに日光や猪苗代湖、銚子やいわきの海に出かけたり、スケートやスキーにも行ったりして、学生たちと楽しんでいらっしゃいました。

20数年間に卒論指導、修士および博士論文指導された学生数は200人近くになり、多方面で活躍しています。私は卒論研究の指導を受けた最初の学生の一人であり、助手として先生と一緒に研究と教育に励みました。

感謝を申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。

(昭48畜卒 菅原 邦生)





追悼

寺中理明先生を偲ぶ



本学名誉教授・農学博士の寺中理明先生は、令和5年7月22日に95歳の天寿を全うされました。

寺中先生は昭和3年のお生まれで、東京大学農学部をご卒業後、昭和26年に農林省東海近畿農業試験場、31年に東京大学農学部

植物病理学研究室助手、42年に農林省九州農業試験場畑病害研究室長を経て、44年10月に本学農学部植物病学研究室の助教授に就任されました。53年6月に教授に昇任され、学科長、評議員、農学部長など多くの役職を務められ、特に学部長として修士課程の再編にご苦労されました。平成5年に定年退職し、名誉教授とられました。本学ではエンドウ根腐病やダイコン根部の亀裂褐変症、トマトばら色かび病、ネギ黒腐菌核病などの菌学的研究に従事し、「*Aphanomyces* 属菌の見分け方と分離法（植物防疫講座）」や「植物病理学 基礎微生物学6」など多くの著書・論文を発表されました。

また日本植物病理学会では、評議員、関東部会長、学会誌編集委員長などを歴任して学会の発展のために大きく貢献され、平成10年に名誉会員に推挙されました。

さて、寺中先生といえば、正直で穏やかなお人柄で仰々しいことは好まず、ご自身を飾らず、真摯に研究に向き合い、常に学生に寄り添って大切にしようとする姿勢には多くの方々信頼を寄せ、学生から慕われていました。先生は記憶力抜群で、25年間の卒業生全員の氏名や卒業年をすべて覚えていて、いくつになられてもスラスラと出てきました。また先生の書かれる字は極めて読みやすく、顕微鏡の観察図は見やすく正確で、学生実験で配布される資料には直筆の菌類の胞子の絵がいくつも使われていました。

最大の趣味は将棋で、アマチュア三段の腕前は学内に敵なしでした。その棋風は、相手に攻めさせて堂々と受け切ってしまう、というまさに王道をゆくものでした。

最後に、寺中先生は故郷の天草の海に海洋散骨され、穏やかに広い自然の中に還られました。心よりご冥福をお祈りいたします。

(生物資源科学科 名誉教授 夏秋 知英)

追悼

渡邊和之先生を偲ぶ



本学名誉教授渡邊和之先生は、2023年8月22日にご逝去されました。享年91歳でした。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

先生は、1931年9月8日に愛知県でお生まれになり、三重大学農学部をご卒業後、1954年に農林省に入省、農林省農事試験場、東北農業試験場で畑作栽培部門を担当され、1981年に宇都宮大学に赴任されました。先生のご研究分野は作物栽培学で、「作物生産における土壌管理の栽培学的意義に関する研究」で日本作物学会賞を受賞されております。

宇都宮大学農学部では1985年に栽培学研究室教授になられ、「栽培学」ならびに「作物学」の講義を担当されるとともに、「農作物の物質生産と収量成立過程の解析」および「環境ストレス下における畑作物の生育反応についての研究」を実施され、1997年まで16年間にわたり多くの学生の教育・研究に尽力されました。この間、日本作物学会では評議員、関東支部長として学問の発展に貢献され、1992年から1994年までは農学部長として農学部の発展に尽くされました。

栽培学研究室では、ラッカセイをはじめ畑作物についてのご研究で多くの学生を育てられました。先生は、やさしいお人柄で、決しておこることはなく、いつもニコニコしておられました。また、先生は大変なお勉強家で、博学でいらっしゃり、研究以外にもいろいろなことを学生たちに話してくださいました。畑では学生たちに直接の研究対象の作物だけではなく、他の多くの作物の栽培を体験させ、また野外での自然観察など幅広い教育をしていただきました。先生のご指導を受けた卒業生は、農業経営、国および都道府県の農業分野の研究・行政職、教員などとして社会で活躍しています。

先生は、ご退官後も大学で開かれる勉強会に参加されてご勉強を続けられ、来学された折には研究室にも立ち寄り、お亡くなりになる数年前まで後輩たちにいろいろと教えてくださいました。ほんとうにありがとうございました。

(生物資源科学科 名誉教授 和田 義春)



## 追悼

## 野村浩二先生を偲ぶ



令和5年4月16日に享年84歳で亡くなられた野村先生は、私の入学と同時に(1975年)に、旧農林省農業技術研究所から30代半ばの若さで本学に赴任されました。当時は農経棟前の芝生で学生と相撲を取るなど、「やんちゃ」

な先生でした。幸か不幸か、私は先生に見込まれたらしく、希望もしてない野村ゼミに配属され、そこでみっちり学問的薫陶を受ける羽目?になりました。ゼミの初っ端に「君は何故、需要曲線は右下がりだと安易に認めるんだ!」とえらい剣幕で叱咤されたことを今でも鮮明に覚えています。ゼミは午後1時から始まって、夜7時過ぎに終わるのが通例でした。卒論も何度も突き返えされ、先生の納得を得られないまま、締切日にこっそり提出した苦い思い出もあります。卒業後、奇しくも先生と同じ農水省の研究機関に入ると、職場の先輩達から「野村君の弟子か!そりゃ、大変だったろう!」とか「彼は一切妥協を許さない頑固で優秀な研究者だ!」などの評に接し、妙に納得しました。例えば、野村先生は我々ゼミ生を同じ研究仲間として対等に扱い、厳しい議論を挑発していたのではないか!?そのお陰で、私は「常識は先ず疑え!」とか「現場にこそ最先端の事象が潜んでいる」等の社会科学研究の基本的な心構えを、学部学生時代に叩き込まれたと感謝しています。ゼミ以外の野村先生は酒好きの兄貴的存在で、馴染みの小料理屋や大学近くの飲み屋に幾度か連れて行って頂きました。肴は決まってマーシャル経済学や会計学の現場適用の話で、当時の私にはチンプンカンプンでしたが、「研究って面白そう」と私に感じさせるほど、先生は嬉々として話してくれました。私が研究の途を歩んだのも、こうした酒の席での会話が遠因となっていると思っています。

先生は定年退職を待たずに、25年間の教鞭人生に自らピリオドを打たれました。私はその序盤の最も頑固で厳しく、でも澁刺とした研究者・野村浩二に出会えたことを誇りに思うとともに感謝しています。衷心より御冥福をお祈り申し上げます。

(昭54経卒 安藤 益夫)

## 追悼

## 五味仙衛武先生を偲ぶ



五味仙衛武先生が令和5年10月20日にご逝去されました(享年95歳)。先生は昭和3年8月、長野県富士見町に生まれました。父親は八ヶ岳酪農の責任者、町長や県議を歴任するなど地域リーダー的存在でした。旧制諏訪中学

を卒業したのち、昭和20年4月、宇都宮農林専門学校農業経済学科に入学、長男であったため、卒業後は郷里に戻り農家を継承するつもりでいたとのこと。しかし岩片磯雄・桐田啓一先生などから専門学校に残るよう説得され、以来、平成6年3月定年退官されるまで46年間、在職され、この間、評議員や農場長なども歴任されました。この在職期間は破られることがないであろうと自慢されていましたが、まさに宇都宮大学の生き字引でした。

先生の言葉を借りれば「生まれ育った環境から、農家の生きざまやそのあり方をもとめる」という現場重視の実践的研究姿勢を保ち続け、農業技術を体系的に論じた農法論は大いに評価されました。瑞穂野や桑島等、大学の近くの農家によく通う姿には感心させられたものです。他方、那須開拓の土地改良・水利などにも関心を払い「栃木県史」の作成にも尽力されました。

また、農業高校用の教科書『農業経営』の執筆にも長年携わり、高校生の教育にもかかわりました。内容が素晴らしく先生が担当してから採用率が高まり数社あった教科書会社はその出版を断念してしまったほどです。

退官後は、栃木県農業会議の会長を務めるなど県の農業振興に尽力されましたが、インターネット対局で趣味の囲碁を楽しんでいたようです。学内でも1、2の棋力で長年囲碁部の顧問をされていましたが、私も指導してもらいました。現在、碁会所に通って老後を楽しんでいられるのは先生のおかげだと、感謝している次第です。先生はスポーツも万能で、たとえば教職員のソフトボール大会で還暦を過ぎてなおセンターオーバーを放った打撃を思い出します。天国でも楽しんでいることでしょう。ご冥福をお祈りいたします。

(昭45経卒 津谷 好人)





追悼

前田安彦先生を偲ぶ



前田安彦先生が2023年12月9日、92歳で逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。先生は、1951年3月に宇都宮農林専門学校農芸化学科をご卒業後、東京大学農学部助手を経て、1962年2月に総合農学科農村生

活科学講座の講師として赴任されました。その後、1996年3月の定年退職まで、改組による学科などの変化はありましたが、食品化学研究室での教育・研究を担って来られました。

私の先生との出会いの中で最も強い思い出となっていますのは、アブラナ科やネギ属野菜の特有成分でありインパクトある香りや機能性を持つ「含硫化合物」の化学に引き込まれるきっかけを示していただいたことです。

一方、先生は日本の漬物産業の発展に寄与する課題にも精力的に取り組んで来られました。特に、まだ科学的研究対象とまでには至っていなかったわが国の野菜・果実の漬物を工業的に一定品質の製品として流通し得る食品として作り上げるための製造と品質保持技術の確立に極めて多大なる貢献をなされました。その功績等により、2010年秋の叙勲におきまして瑞宝中綬章を受章されました。その祝賀会には研究室を巣立っていった多くの卒業生が全国から馳せ参じたところです。

前田安彦先生を語る上で欠かせないことの一つに、食品化学研究室を選んだ学生たちへの先生の接し方があります。前田先生の学生たちとの付き合い方は、本当にざっくばらんで、時には自宅まで呼び集めて、まさに師を身近に感じるという濃密なもので、学生にとっては大学の先生とそこまで深く接し得るのかというほどでした。研究室に在籍した学生に対する先生のこのような接し方が、いつまでも全国に多くの前田門下生として存在する理由の一つと言えます。前田安彦先生、長い間、大変お世話になりました。どうぞ安らかに眠りください。

(昭45化卒 宇田 靖)

追悼

暉峻衆三先生を偲ぶ



2023年12月22日、暉峻衆三先生が99歳で急逝されました。先生は1947年に東大農業経済学科を卒業された後、東大社研、東京教育大学文学部、信州大学経済学部の勤務を経て、1984年に本学農業経済学科の教授として赴任

され、1990年に定年退官されました。学部、大学院修士課程及び発足間もない東京農工大学大学院連合農学研究科では主に「農政学」を担当され、多くの有為な学生・研究者を世に送り出しました。

先生は著書、論文等多数の業績を残しておられますが、中でも代表作『日本農業問題の展開 上・下』(東大出版会)は国内外で高い評価を得ていますし、編著の『日本の農業150年 1850～2000年』は日本語のみならずハングル版、中国語版、英語版も出版され、世界での日本農業研究にも多大なる貢献をされています。また、本学在職中には、先生の編著で『日本資本主義と農業保護政策』(御茶の水書房)を出版なさいました。

理論のみならず実践も重視し、定年後の1992年から2004年まで『農業・農協問題研究所』の理事長を務められ、わが国の農業・食料及び地域社会の発展に貢献されました。99歳まで記憶力は低下することなく、頭脳明晰、人格高潔な先生でした。

去る、4月7日東京で「暉峻衆三先生を偲ぶ会」が行われました。会にご家族・同僚・教え子など数十名が参加し、厳かに執り行われました。先生の人望の厚さを改めて実感致しました。

本学科発展のため、多大なるご尽力をいただいたことに改めて深く感謝を申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り致します。

(昭42経卒 水本 忠武)



## 追悼

## 小金澤正昭先生を偲ぶ



小金澤正昭先生は、2023年10月24日に73歳で逝去されました。先生は、1950年7月16日に東京都渋谷区でお生まれになり、東京農工大学、同大学大学院で林学、環境保護学を学ばれました。

その後平成3年に農工大連合農学

研究科で学位を取得されました。

研究面では昭和54年に野生生物研究センター（現：自然環境研究センター）において、野外調査を主とした大型哺乳類の生態研究を先駆的に展開され、日本に野生動物保護管理を導入し、野生動物の保全・管理に尽力されました。栃木県立博物館を経て平成3年、宇都宮大学農学部附属演習林に講師として着任され、助教授、教授を歴任、平成26年度～平成27年度まで雑草と里山の科学教育研究センター、平成28年度～令和3年度まで雑草管理教育研究センター特任教授、名誉教授として宇都宮大学の研究教育活動に貢献されました。平成16年～平成24年農学部附属演習林長として演習林運営の舵取りをされました。

教育面では森林科学科の教育カリキュラムを主に担当され、学部では「野生鳥獣管理学」、「同実習」、大学院では「野生鳥獣管理学特論」などを教授され、野生鳥獣管理学研究室を主宰して卒業生・修了生から多数の国家公務員・地方公務員の野生鳥獣関連の技術者を輩出されました。

地域貢献では行政職員への啓発・支援を積極的に展開され、平成21年には文部科学省「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム」の実施責任者として、人材養成に注力されました。平成25年には「一般社団法人 鳥獣管理技術協会」を設立、「鳥獣管理士」の認定事業を実施し、人材養成プログラムを継続に尽力され、平成10年～平成20年には野生生物保護学会理事、評議員として学会の発展に貢献されました。

自然保護や野生動物管理については大変なこだわりがあった先生でした。教え子の結婚式の祝辞として、米国の著名な環境化学者レーチェル・カーソン氏の「センス・オブ・ワンダー」の一節を朗読され、科学的問いを持ち続けることの大切さを示されたことが特に印象に残っています。これまで多くの教えをいただいた小金澤正昭先生に、あらためて感謝申し上げますとともに、ご冥福を心からお祈りいたします。

(昭57林卒 大久保達弘)

## 追悼

## 高橋衛先生を偲ぶ



1月6日に高橋衛先生が逝去されました（享年82歳）。謹んでご冥福をお祈りいたします。

高橋さんは昭和36年、農学部農芸化学科に入学され、昭和40年3月卒業後、(現) 会津大学を経て、昭和41年10月母校農芸化

学科助手に採用され、その後、同助教授に昇進した。

農芸化学の教育・研究体制は発足当初から大枠は変わらず、新分野への対応は他大学に比べても著しく遅れていた。既存の「植物栄養学及び肥料学」、「土壌学」、「生物化学」、「農産製造学」、「食品化学」の5講座に加えて、「応用微生物学（五月女教授・高橋助教授）」の新設は悲願であった。

しかし、新設した研究室には分析機器をはじめ、設備が不足していたうえに、予算措置はわずかであった。そのためであろう、研究室が隣り合わせていた私には、高橋さんが道具作りや機械いじりなどを行っている姿がよく思い浮かぶ。応用微生物学を希望する卒論生が多いなか、体調がすぐれなかった教授を支え、農芸化学科の主要研究室であり続けた。

平成4年、高橋さんは26年在籍した母校を辞し、(株)みずすコーポレーションに移った。同社の社長と卒業生（小杉敏行さん）のご厚意によるものであった。私はこの時点まで高橋さんの本当の苦しみを理解していなかった。友人たり得なかったといってもよい。以下は私の推察である。

この時代、国立大学の教授、助教授は博士号の保持が当然視されるようになり、高橋さんも執筆段階にあったと推察される。しかし、博士論文の主要部分を構成する業績（学術雑誌に既発表の論文）が共同研究者の博士論文に使用されたために、自身の博士論文を構成することができないことを知った。母校を辞したのはこの時期と一致する。

長野での高橋さんは農芸化学を越えた機械・設備に関心を広げ、社の主要製品の製造技術の改良発展に貢献した。また、大学では得難い方々との交友があり、休日には野山を散策し、登山を楽しむ余裕を得たようだ。

(昭40化卒 加藤 秀正)



## 支部総会（6支部）

全国の支部活動のご紹介です。同窓生の皆様には各県支部に入会頂き、同窓生のつながりを深めて頂きたいと思えます。お問い合わせは、P 25の支部長一覧をご参照下さい。支部総会開催の際は、事務局までご連絡ください。

YAMAGATA

### 山形県支部総会

令和5年9月16日、山形市内のホテルメトロポリタン山形で山形県支部総会が開催されました。当日は同窓会本部から森林科学科の大久保達弘先生をお迎えし、県内各地から同窓生29名が集いました。

総会は佐藤淳司支部長（農化S45卒）の挨拶に始まり、議長に選出された丸山修氏（新開S46卒）の進行により事業報告、会計報告が速やかに進められました。また役員改選では新支部長に田中順一氏（新農S46卒）、新副支部長に安田弘法氏（新農S55卒）が選出され満場一致で承認されました。

総会終了後は、伊藤登啓（新畜S37卒）のご発声により懇親会が始まりました。各人の近況報告や学生時代の思い出話などが語られ大いに盛り上がりしました。

来賓の大久保先生からは、大学の近況や農学部創立100周年記念行事の取組、宇都宮市の街の様子などの報告をし



ていただき、大学や宇都宮の街を懐かしく感じながら聞き入っていました。

山形県支部総会の開催は、例年隔年開催をしていましたが、コロナ禍の影響により今回は5年ぶりの開催となりました。2年後の次回総会では、さらに多くの同窓生の皆様の出席を期待いたします。

（平7森卒 上野 満）

HUKUSIMA

### 福島県支部総会

福島県支部総会は令和5年11月11日(土)に郡山市「姑娘飯店（くうにゃんはんてん）」において、会員27名の出席のもと盛大に開催されました。

コロナ禍の中、令和2・3・4年度は開催を中止し、書面議決で役員改選等を行ってきました。コロナを取り巻く状況も変わってきたことから今年度は開催することとし、準備を進めてきました。

総会では、後藤達夫支部長（農経S46卒）の挨拶に始まり、来賓として同窓会本部から出席いただきました福井えみ子教授より総会開催に当たって、お祝いの言葉と大学の近況等についてお話をいただきました。特に来週、11月18日は農学部100周年記念式典が開催されるお忙しい中、本総会に出席いただきました福井教授には感謝を申し上げます。

奇しくも中止前の令和元年度の総会に福井先生にお出でいただき、再開した今年度の総会にもお出でいただいたということは何かの縁でしょうか。総会ではスムーズな議事進行により、支部活動経過、収支決算報告が承認され、終了後、恒例の記念撮影を行いました。

続いて、この3年間で鬼籍に入られた先輩諸氏へ黙祷を



行い、懇親会へと移りました。懇親会では各会員とも年齢差を感じさせない飲みっぷりで盛り上がり、峰ヶ丘時代の思い出やお互いの近況などの話題に花を咲かせ楽しいひと時を過ごしました。

その後、宇都宮大学歌を声高らかに大合唱し、来年度の再会を誓い散会となりました。同窓会のあり方等状況も変化しておりますが、令和6年度の総会は福島市で同時期の開催を予定しております。県内在住の同窓生の皆様には御案内をお送りしますので多数の出席をお願いいたします。

最後にご来賓としてご出席いただきました福井教授、並びに同窓会本部事務局に御礼を申し上げます。

（事務局長 昭50農卒 高梨 公）

TOCHIGI

### 栃木県庁支部総会・懇談会

令和6年8月29日に、ホテルニューイタヤ（宇都宮市）において、栃木県庁支部定期総会・懇談会を開催いたしました。

当日は、業務等で御多忙の中、また、ゲリラ豪雨が降りしきる中、昨年度に増して多くの皆様にお集まりいただき

ました。心から感謝申し上げます。

定期総会については、新型コロナウイルス感染症の影響等により5年ぶりに対面形式での開催となり、峰ヶ丘同窓会から宇田同窓会長、杉本副会長、房理事長、そして山根農学部長に御臨席いただきました。議事は滞りなく進み、全ての議案が承認され、支部長には、令和5年度に引き続き柴田和幸氏（化H2卒・現 栃木県農業総合研究セン

ター所長)が選任されました。

総会に続いて開催した懇談会では、来賓を含めて総勢64名の出席のもと盛大に開催できました。柴田支部長の挨拶に続き、宇田同窓会長からはお祝いの言葉とともに、乾杯の御発声をいただきました。新たに入会した会員も含め、今年度は例年以上に若い会員の出席者が多い中、立場や世代に関わらず交流の輪が広がり、宇大にまつわる思い出話に花を咲かせ、楽しい一時を過ごすことができました。

地元栃木県の支部として、これからも同窓会を盛り上げて参りたいと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。



(平20生殖卒 会田 智明)

## IWATE 岩手支部総会

宇都宮大学峰ヶ丘同窓会岩手支部は、令和5年8月26日(土)、盛岡駅前の開運橋近くにある「遠野物語」において、令和元年以来4年ぶりとなる総会を開催しました。

同窓会本部から森林科学科の大久保達弘教授(林S57卒)を御来賓として御招きし、会員18名が参加しました。

総会では山口和彦支部長(農S45卒)が、新型コロナの影響から4年ぶりに開催できたことを祝し挨拶したのち、4年度分の事業会計報告や役員改選を行いました。

総会終了後は懇親会に移り、新支部長となった小池俊吉氏(農経S44卒)の乾杯で始まり、大久保教授から大学の近況や農学部100周年記念事業などの同窓会本部の活動等について御紹介いただきました。

久しぶりの開催であったことや、若い方の参加が多かったこともあり、大変盛り上がりました。

最後に、新たに副支部長となった菊池則道氏(畜S49



卒)が1年後の再開を願い、お開きとしました。

今回4年ぶりの開催にあたっては、新たに参加いただいた方がいる一方で、転居により宛先不在の方もいました。同窓会本部の御協力をいただいで最新の情報を得ながら、引き続き、多くの参加を得て盛り上げていきたいと思ひます。

(昭63林卒 及川 明宏)

## AKITA 秋田県支部総会

新型コロナウイルス感染症が5類に以降したことを受け、令和5年12月2日(土)に秋田キャッスルホテルにて、宇都宮大学峰ヶ丘同窓会秋田県支部総会を4年ぶりに開催することができましたので皆様にご報告いたします。

最初に秋田県支部の現状であります、宇都宮農林専門学校時代の卒業生を含め、約200名の会員で構成されています。名称変更はありますが、農学・林学・農業工学・農業経済学の卒業生がおり、一堂に会する唯一の機会がこの総会となっています。

総会当日は、本部より宇都宮大学農業環境工学科の松井宏之先生をお招きし、大学の近況についてご報告いただきました。また、その後の交流会では、教え子との再会や秋田の郷土料理(いぶりがっこ、ぼだっこ等)を堪能していただきました。みぞれが降る悪天候の日取りでしたが、足を運んでくださった先生には感謝を申し上げます。

会員同士の交流では、秋田米の新品種「サキホコレ」や熊による被害、豪雨災害等、令和5年に県内で話題となった話で盛り上がりました。また、会場にこられなかった



方々の一部からは、はがきで近況報告を受けており、それを皆様に情報共有するなど、会員の活躍を皆で喜びました。

最後に、コロナの影響で4年ぶりの通常開催となり、いろいろと不安がありましたが、会員の皆様から予想以上の反響があり、無事に開催することができました。

たいへん有意義な会となりましたので、長年開催できていない支部におかれましては、是非、再開を検討してみたいかがでしょうか。

(平24環卒 伊藤 隆史)



MIYAGI

## 宮城支部総会

コロナ禍等の影響により、休止していた峰ヶ丘同窓会宮城支部総会が、令和6年1月27日、仙台市内の「TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口」にて、会員23名出席のもと、4年ぶりに開催されました。

当日は、支部長の氏家清明氏（畜産学科19回）の挨拶で開会し、同窓会本部から来賓として出席いただいた香川清彦先生に大学の近況等についてお話をいただきました。次いで、氏家支部長を議長に事業計画等について議事が進められ、原案どおり承認されました。

引き続き行われた懇親会では、香川先生を囲んで大学時代の思い出や互いの近況話に花を咲かせました。最後は、通例となっている大学歌、コチャ工節等を全員で合唱しました。

4年ぶりの支部総会ではありましたが、久しぶりの再会



を楽しみ、最後に、新支部長に就任した勝又敏彦氏（林学科27回）から、支部活動の再スタートと来年の再会を誓い散会となりました。

宮城支部としては、今後も総会、役員会の他、交流会を定期的に関きながら、親睦を図ってまいります。

（平4農卒 北奥 真一）

## 教 員 海 外 学 会

# International Society of Root Research 12th International Symposium Roots [& Roads] to a sustainable future に参加して

2024年6月2日から7日にかけて、ドイツのライプツィヒで開催された根の国際学会に参加した。学会においては、「Dynamic lateral root response to local phosphorus distribution improves phosphorus acquisition by wheat」のタイトルで口頭発表をした。発表では、リン酸施肥量は同量でも局所的な施用によりコムギの生育が2倍以上に改善すること、この生育改善に根から分岐する側根の土壌中のリン酸濃度に応じた可塑的な発達に関与していること、を示した。局所施肥に対する側根の動的な反応を動画で詳細に示したことから、聴衆の反応は良く、手法に関する質問などがあった。

学会中は、養分吸収や根系発達に関するモデリングを実施している研究者と交流を深め、科研費を応募する際に共同研究者になってもらえる約束を取り付けた。また、新たな手法に関する情報も得ることができたので、今後、自身の研究においても活用していきたい。近年の研究の傾向としては、X線CTを使った非破壊での根の計測や、深層学習を用いた画像解析技術を用いた大型の根系フェノタイプングに関わる発表が増えてきた。また、根系および根圏微生物の叢解析や、根の炭素貯留に関する発表も多くなってきた印象を受けた。



開催場所であるライプツィヒには「音楽の父」バッハの墓があり、到着した日が土曜日であったから複数の広場でライブが開催されていた。広場には、ビールとホットドックのスタンドがあり、音楽を聴きながらビールとホットドックを堪能することができた。一方、学会で食べる食事は全てベジタリアンもしくはビーガン食であり、ヨーロッパでの食文化が変化しつつあることを実感した。

最後に、国際学会への支援をしてくださった峰ヶ丘同窓会の皆様に心より御礼申し上げます。

（文責：生物資源科学科 神山 拓也）

MIYAGI

## 宮城支部総会

コロナ禍等の影響により、休止していた峰ヶ丘同窓会宮城支部総会が、令和6年1月27日、仙台市内の「TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口」にて、会員23名出席のもと、4年ぶりに開催されました。

当日は、支部長の氏家清明氏（畜産学科19回）の挨拶で開会し、同窓会本部から来賓として出席いただいた香川清彦先生に大学の近況等についてお話をいただきました。次いで、氏家支部長を議長に事業計画等について議事が進められ、原案どおり承認されました。

引き続き行われた懇親会では、香川先生を囲んで大学時代の思い出や互いの近況話に花を咲かせました。最後は、通例となっている大学歌、コチャ工節等を全員で合唱しました。

4年ぶりの支部総会ではありましたが、久しぶりの再会



を楽しみ、最後に、新支部長に就任した勝又敏彦氏（林学科27回）から、支部活動の再スタートと来年の再会を誓い散会となりました。

宮城支部としては、今後も総会、役員会の他、交流会を定期的に関きながら、親睦を図ってまいります。

（平4農卒 北奥 真一）

## 教 員 海 外 学 会

# International Society of Root Research 12th International Symposium Roots [& Roads] to a sustainable future に参加して

2024年6月2日から7日にかけて、ドイツのライプツィヒで開催された根の国際学会に参加した。学会においては、「Dynamic lateral root response to local phosphorus distribution improves phosphorus acquisition by wheat」のタイトルで口頭発表をした。発表では、リン酸施肥量は同量でも局所的な施用によりコムギの生育が2倍以上に改善すること、この生育改善に根から分岐する側根の土壌中のリン酸濃度に応じた可塑的な発達に関与していること、を示した。局所施肥に対する側根の動的な反応を動画で詳細に示したことから、聴衆の反応は良く、手法に関する質問などがあった。

学会中は、養分吸収や根系発達に関するモデリングを実施している研究者と交流を深め、科研費を応募する際に共同研究者になってもらえる約束を取り付けた。また、新たな手法に関する情報も得ることができたので、今後、自身の研究においても活用していきたい。近年の研究の傾向としては、X線CTを使った非破壊での根の計測や、深層学習を用いた画像解析技術を用いた大型の根系フェノタイプングに関わる発表が増えてきた。また、根系および根圏微生物の叢解析や、根の炭素貯留に関する発表も多くなってきた印象を受けた。



開催場所であるライプツィヒには「音楽の父」バッハの墓があり、到着した日が土曜日であったから複数の広場でライブが開催されていた。広場には、ビールとホットドックのスタンドがあり、音楽を聴きながらビールとホットドックを堪能することができた。一方、学会で食べる食事は全てベジタリアンもしくはビーガン食であり、ヨーロッパでの食文化が変化しつつあることを実感した。

最後に、国際学会への支援をしてくださった峰ヶ丘同窓会の皆様に心より御礼申し上げます。

（文責：生物資源科学科 神山 拓也）

## クラス会 (13クラス会)

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。紙面の都合上、写真は1枚、原稿は800字までとさせていただきます。何卒ご協力のほどお願い致します。

### 1 農芸化学科 クラス会 第18回卒業生クラス会

2023年10月15～16日、宇都宮ロマンチック村にて、標記のクラス会が開催され、9名が参集した。当初、卒業50年の節目に開催ということで、2020年が開催予定であったが、新型コロナウイルスの拡大により延期、延期で、ようやく卒業53周年目の開催に漕ぎつけた。参加者は、連絡可能なクラスメンバー21名中13名が参加する予定であったが、皆76歳を超えており、体調不良、特に腰痛悪化や、風邪、病氣入院などで次第に減ってしまっていたが、9名が元気に再会した。

夕食会ののち、参加者交流会に移り、若き学生時代の食品加工実習や学生実験、卒論研究室の思い出などで盛り上がり、夜11時ごろまで歓談が続いた。

翌日は、近くの若竹の杜「若山農場」を40分ほどかけて散策し、さまざまな種類の竹林に感動しつつ見学を終了し、母校に向かった。母校では大学会館内の生協食堂で、早めの昼食を摂った。岩田、岡本両君は、かつての硬式・準硬式野



球部の思い出を探るということで野球場を見に行っただが、その後皆で改装された農芸化学棟内を一巡して解散した。参加者の何人かは、新しく開業したばかりのLRTにて、陽東3丁目停留所からJR東口まで乗車して帰宅の途に着いた。

久々のクラスメンバーの再会と母校見学で50数年前の学生時代を思い起こしたのではないかと推察。数年後にでも、またできるだけ多くの面々が集える機会を持てればよいと思いつつ、難しくなってきた感も否めない。

(文責：宇田 靖)

### 2 農学科(昭和42年4月入学)クラス会 クラス会 5年ぶりに開催

コロナ禍がやっと落ち着いてきたこと、さらに農学部100周年記念事業が開催されることになったことから、この記念事業に合わせて、令和5年11月17日(金)水戸市のホテル「ルートイン県庁前」にて、5年ぶりに開催されました。

今回は、兵庫県の高橋本伸一さん、山形県の田中順一さん、福島県の只野須寿夫さん、関東では、東京都藤平幸男さん、千葉県宇井正一さん、埼玉県湯本耿介さん、栃木県小林定男、鈴木忠、猪瀬博の3君、それに幹事の茨城県高橋栄二・菊池正藏の計11名での開催となりました。

懇親会は、会場のホテルに隣接した「はなの夢・まぐろや」という居酒屋でしたが、前回から5年ぶりということもあって、それぞれの話に花が咲き、2時間があっという間に過ぎてしまいました。閉会後は、ホテルのロビーに場を移しての2ラウンドとなりましたが、なお途切れる事なく話が弾み、幹事が「もう、そろそろ…」と声をかけるまで続きました。

翌日は、小春日和の中、紅葉の始まった旧茨城県庁に車を止め、隣接する水戸藩校の「弘道館」、再建された「大手門」、水戸城で唯一現存する「薬医門」など、水戸城三の丸から本

丸跡まで、歴史散歩を楽しみ、昼食を食べて散会となりました。

昭和42年春に入学した私たちも全員が後期高齢者の仲間入りをして、返信はがきには、足が痛い、腰が痛い、心筋梗塞を患った等々健康面の不調を訴える級友が、少しずつ増えている気がしますし、一方で長いコロナ禍の中で出不精になってしまった級友もいるのではと慮られます。

今回は、宇井さんのご配慮により、是非、千葉県で…ということとなりましたので、多くの級友の参加のもと、元気な姿で再会できることを願っております。

(文責：高橋 栄二・菊池 正藏)



### 3 農学科第20回生宇都宮でのクラス会 クラス会 (昭和47年3月卒業)

令和5年6月、4年ぶりに群馬県伊香保でクラス会が開催されました。その席上、誰が言うともなく、宇大農学部の百周年記念式典に併せて宇都宮でクラス会をやるのではないかと声。同一年に二回のクラス会です。時間的、金

銭的にどのくらいの級友が参加してくれるかと思っていました。また計画の当初は百周年記念式典も未確定な点がありました。しかし、8月を過ぎる頃には具体化しましたので、クラス会もそれに沿って進められました。

11月18日午後2時、JR宇都宮駅に近いホテルに集合です。後期高齢者になりつつある私達ですので、転んで足を痛めたとの欠席連絡もあり、参加者は19名となりました。



ロビーでは「元気にしていたか？変りないか？」など互いの挨拶とともに、再会の握手です。午後3時になるとともに百周年記念式典に参加する者、宇都宮市街を見て回りたい者、ゆっくりロビーで語り合いたい者など、さまざまに各自の行動になりました。百周年記念式典ではやや薄暗かったせいか、恩師の先生が近くの席に座っているのも気が付かず、「なんだ来ているのか」、「え？先生！お久しぶりです。気付かず、大変失礼しました」と楽しい談笑が始まりました。

ホテルでの懇親会では、幹事長の歓迎の挨拶、家庭の事情で徐々に再開した友人による乾杯。それに引き続き、参加者の近況報告です。各自それぞれの趣味の話、健康の事などが話されると、同感だと頷く者、よかったと拍手をするものなど、それぞれの家庭での出来事が垣間見られました。また、今回は埼玉県での開催が決まり、担当の幹事さんからの挨拶になりました。二次会は夫妻で参加の級友の部屋に移動です。恒例の各自が持参した地元のお酒をはじめ、自宅で収穫した果物やつまみが並べられ、夜遅くまでの歓談でした。



翌日は、10月に出来たLRTに初めて乗りながら大学構内を散策するグループ、学生時代に生活した旧志峰寮跡地に行くものなど、自由行動となりました。志峰寮跡地に残る桜の木は、今回参加した級友が50年前に旧林学科の先生のご指導のもと植樹したとのこと。幹回りは70cmにもなっており、思い出深く写真に収めていました。その後、埼玉での再会を念じながら三々五々家路につきました。

(文責：金子 幸雄)

#### 4 農業経済学科クラス会 (昭和48年卒業)

クラス会

2023年11月18、19日、宇都宮大学の学園祭（峰ヶ丘祭）と農学部創設100周年記念行事（昨年であったがコロナ禍で延期された）にあわせて、農業経済学科1973年卒のクラス会を開催しました。

学科ビル前に集合し、友の姿かたちと学内の変貌に驚き、峰ヶ丘祭では孫のような学生のエネルギーに圧倒され、青春を過ごした日々を懐かしく思い起こしました。その後ろまんちっく村に移動し、「宇大浪漫」の芋・麦焼酎を堪能し、地域社会や自らの日々を老年期の教養＝今日用がある、教育＝今日行く所があるに努めていることを披露しあいました。

最後に秋田から来た友が①また遠くない時期に開催しよ



う②それまで元気でいよう③さらにその後20年は元気に生きて100歳を見通そうと三つの提案をして、卒業後50年のクラス会を終えました。

(文責：谷澤 良一)

#### 5 農業開発工学科 昭和48年度入学クラス会

クラス会

昭和48年度に農業開発工学科入学した同期生（卒業年次は問わない）は「農業開発工学科昭和48年度入学同期会」と称して、第1回を栃木県那須塩原温泉で平成29（2017）年に開催し、その席上で今後は隔年開催とすることを決め、第2回を令和元（2019）年に滋賀県雄琴温泉で開催し、第3回は令和3（2019）年に東北地方で開催することとして散会しました。

しかし、その後の新型コロナウイルス感染症の流行により開催の延期を重ね、令和5年5月に感染症が第5類に移行したことにより、7月2日(日)～3日(月)の日程で岩手県盛岡市繫温泉を会場に4年越しの開催となりました。

入学同期生41名のうち、日月と変則的な日程でしたが何とか都合のついた10名の出席となりました。

当日は午後3時にJR盛岡駅西口に集合し、連絡バスで会場の繫温泉「愛真館」に入り、一休みの後、会食（昭和の宴会）となりました。

会食会場では全員が近況や当日欠席した会員の状況等を報告した後、奇しくも令和5（2023）年は、入学後ちょうど50年になることを伝えたと、年月の過ぎ去る日々



を感じながらも、会食会場から2次会会場も含めて深夜まで、学生当時の思い出話などに花が咲き続けました。

翌日は、加齢の影響であるかもしれませんが、ほぼ全員が午前7時には起床し、一部は早朝の小岩井農場周辺へ今回幹事の案内でドライブに行ったりしました。

朝食後に、連絡バスで盛岡駅に戻り、2年後の再会を約束して、各自が盛岡市内・岩手県内などの観光に向かいました。

次回の第4回は、令和7（2025）年に、栃木県を除いた北関東で開催の予定です。

(文責：第3回幹事 小山 純)

## 6 畜産学科第25回生宇都宮に集う クラス会 (昭和52年3月卒業)

令和6年5月23日に宇都宮市のホテルニューイタヤにおいて、卒業後、第2回目となるクラス会を開催しました。当日の参加者は12名(同級生25名中)でしたが、2次会・3次会にも多くの方々に参加していただき、学生時代の思い出話に花が咲き、旧交を温めました。

卒業後の第1回目のクラス会は、8年前に開催し9名の参加をいただいたところですが、今回は卒業後約半世紀(47年)が経ち、新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、宇大農学部創立100周年を迎え、さらには古希前後の節目の年でもあり、急遽開催したところですが、遠路、北は北海道、西は広島県・京都府・愛知県・長野県・千葉県・埼玉県から7名の方々にも参加をいただき盛会にクラス会を開催することができました。

同級生は、古希前後を迎えておりますが、現役で家業に励んでいたりと、第二、第三の職場で活躍したり、地域行政区・自治会などで役職等に就いたり、ボランティア活動に



後列左から 岡本⇒田澤⇒荒田⇒山崎⇒渡邊⇒山口  
前列左から 鈴木⇒松山⇒田村⇒荒井⇒桑山(谷口)⇒小森  
精を出すなど、夫々の地域において大きく社会に貢献していることが窺えました。

今回は急遽クラス会を開催することとなり、都合により又は健康上の理由で参加できなかった方々が多かったのではないかと思いますので、またこのような企画をさせていただきますので、次回のクラス会(後期高齢者突入前後か?)には、多くの参加を期待し、同窓会の報告といたします。

(文責: 田村 孝二)

## 7 農芸化学科第27回卒業クラス会 クラス会 (昭和54年3月卒業)

参加者: 岩淵(藤田)・神崎・武内(柴沼)・中野・檜山・村田・赤羽根・金城・佐山・矢部、幹事根岸(松村)・北爪・安部 13名

令和5年3月25日(土)、宇都宮市のホテルニューイタヤでクラス会を開催しました。コロナ禍前までは1~2年毎に開催してきましたが、コロナ禍により久しぶりの開催となりました。

今回は村田さんの発案と檜山さんの企画で、懇親会の前に宇都宮の街並みを散策する「ブラひやま」をしました。

まず、腹ごしらえでインドレストラン15(イチゴ)でランチ後、「歴史の薫る街中コース」と題して、太古の二荒山神社から大銀杏を経由して近世の宇都宮城への道を辿りました。

年には勝てず少し疲れながらも15時からはホテル会場に場所を移し、北爪幹事の挨拶の後、それぞれから近況報告をしてもらい、根岸さんの采配でビンゴ大会を行いました。ビンゴ景品は幹事の地元のみやげ品を持参したのですが、奇



遇なことに景品は幹事3人が当選する結果になってしまいました。学生時代の話や現在の過ごし方などで話が盛り上がりあっという間に予定の時間は過ぎてしまい、まだ話足らずに居酒屋に場所を変え2次会まで行いました。なつかしい旧友としばしの時間を過ごすことができ楽しいひとときでした。

次回は令和6年6月に栃木県内の温泉で1泊での開催を予定しています。次回は岩淵さん、神崎さん、中野さん、佐山さんが幹事となり楽しいクラス会を計画しますので楽しみに待っていて下さい。

(文責: 安部 充)

## 8 農業経済学科 クラス会 昭和53年入学生同期会報告

出席者(敬称略)

芦川、飯村、石川、大森、小沼、開沼、加賀美、小太刀、小松、斎藤、篠崎、篠原、実川、鈴木、角山、武田、土山、露木、成田、橋本、成毛、半田、東、人見、伏木、益子、箕輪、茂呂田、八木、山久保、山本 31名

令和5年11月18日農学部100周年記念イベントに合わせて宇都宮市の山泉楼において同期会を開催しました。

同期会は卒業以来10年毎に開催してきた経緯はありますが、仕事等の都合で皆がそろって出席とはならない状況でした。65歳が近づき仕事を完全にやめる者も増え、そ



うした際に、『峰ヶ丘会報』で農学部100周年イベントのお知らせ。これを受けてはがき、電話等で同級生に呼び掛けようということになり、42名に参加を案内、北は仙台市、南は静岡市から31名に参加していただきました。



折しも入学当初からお世話になった五味先生の訃報もありましたが、ご多忙のところ津谷先生には快く参加いただいたほか、水本先生には温かい寄稿文までいただきました。本当にありがとうございました。

入学当時、コンパと言えばフランス式庭園、会費1,000円でお酒を覚えた我々が卒業後42年経過して中華料理を囲みながら近況を報告、仕事を辞めた後の抱負等をつまみに美味しいお酒を酌み交わし旧交を温めることが出来ました。『昔の飲み方からすると随分大人しくなったね。』と昔

のコンパを懐かしみ、また、『健康で次回同期会は3年後？5年後？』と再会を誓い合って散会しました。

LRTが建設されるなど、大きく変貌を続ける宇都宮市、峰町隈に昔の景色はほとんど残っていませんでしたが、夜中に自転車で友人の下宿を行き来する際に良く通った樫に囲まれた小径がかるうじて残っており、若かりし頃を思い出せました。次の同期会に向け、また健やかに毎日を過ごせそうな気がしております。

(文責：小松 武)

## 9 昭和46年畜産学科卒業 クラス会 同窓の集い

実施日時：令和6年5月10日 AM 11時～  
場 所：浦和市「うなぎの満寿屋」  
参 加 者：8名

コロナにより会う機会も制限されていたことから、参加者それぞれ活発な意見交換をしました。また、後期高齢者となり残り少ない人生となってしまった事から、次回の集いも早い時期に計画しようとの意見が出されました。昼食会で楽し



いひと時を過ごした後、全員で2次会も楽しんだところです。  
(文責：矢島 清史)

## 10 農学科第12回生クラス会 クラス会 (昭和39年3月卒業)

級友全員が目出度く「傘寿」を通過した事を祝い、コロナ禍などで中断していたクラス会が5年振りに開催され、2023年11月17日(金)会場の宇都宮市内・ホテルニューイタヤに級友14名が集った。通算23回目のクラス会である。前回から可なり時経があるが、再会してみると5年前の級友の顔があった。

物故級友へ黙禱を捧げた後、地元庄司君の音頭で久しぶりの再会を祝い、今後のお互いの健勝を祈念して乾杯、懇親が始まった。級友諸氏の近況報告では、各人の生き様を披露し併せて年齢に起因する健康問題や病気治療中の悩み等の披露もあり、今までのクラス会と多少違った雰囲気も感じられた。和気あいあいの内に宴会も終盤に入り、クラス会の名物「松本君の世情替え歌」を今回も聴くことが出来て、一同大満足。即座に次回の再演を予約した。こうして約2時間半のクラス会は、橋本君の閉会の言葉をもって盛大裡に終了した。

唯、今回のクラス会は、酒豪達の酒量が落ち込み、常套であった酒の追加注文と恒例であった「二次会の設営」が珍しく無かった事が、特徴的であった。節目の傘寿を過ぎた高齢者達の集いとしては、むべなるかではありますが一抔の寂しさを感じた。

翌日朝食後、またの再会を楽しみにしつつ、一部は母校



第12回農学科生クラス会 (2023年11月17日ホテルニューイタヤ) 学園祭を見学するグループや創立100周年記念式典に参加する者、その他に分かれ自由解散した。

次回クラス会は、日時・会場等未定ですが、自分達の年齢も考慮して、余り間隔を開けずに集まりやすい地区(場所)で開催する事になりました。

最後に第12回農学科生の現状を付記します。母校を卒業して早60年。卒業時29名であった級友達は、2024年4月現在23名となっております。所在地別では、宮城県4名、栃木県6名、茨城県1名、群馬県1名、埼玉県2名、千葉県4名、東京都1名、神奈川県2名、大阪府1名、兵庫県1名であります。この内埼玉、千葉、東京に在住の級友間では、クラス会の他に年2回、主に上野、浅草を拠点に集い、交流を深めています。

(文責：澤井 孝慈)

## 11 農業経済学科クラス会 クラス会 (昭和53年3月卒業)

日 時：2023年10月2日(月) PM18時～  
会 場：酒田市 魚屋 富重  
参加者：14名

クラス会やろうかな～と思っていたら、コロナが発生し、送られてきたクラス会用の名簿は私の手元で何年も眠ったままに。

2023年はコロナも下火になってきたし、よし！今年こそやろうと思い気合いを入れて企画しました。

私たちの学年は3年生の時の農村調査が酒田市新堀地区だったので皆さん一度は酒田に来ています。私個人として



は農村調査が地元にあたってしまい残念な思いをしました。

実に卒業以来45年ぶり。とはいえ名前と顔が一致すれば、学生時代にタイムスリップできるのがクラス会の醍醐味。近況報告やらで話に花が咲きました。あつという間の時間でした。次回の幹事を決めて無事ハイタッチしました。鈴木さん、次回群馬でよろしくね～！

記念撮影をながめながら、みんなどんな45年を歩んできたのかなと、しばらく思いを巡らせました。

参加してくれた皆さんありがとう！

皆さん喜んでくれたので、本当にやってよかった思いました。



(文責：荘司 章子)

## 12 林学科10回生「慶祝記念」有終の同期会 クラス会 (昭和37年3月卒業)

日 時：2023年11月18～19日

場 所：宇都宮市「ホテル・ニューイタヤ」

(コロナ禍で5年ぶり)「卒業50周年記念・第17回同期会」は、2012年栃木で開催、50年ぶりの母校訪問でした。以後、各地域幹事会の企画で、2年毎に北海道(洞爺湖)・首都圏(東京)・東北(福島)で開催。毎回20人ほどが参加盛会でした。

次いで予定した2020年「同期会」は、コロナ禍で年々延期。やっと2023年、宇都宮で開催することができました。5年ぶりの再会。皆待ち遠しかったのか元気、参加者は10人でした。ただ、この5年間に8名が亡くなり、物故会員は17人。無念です。

(両慶事記念同期会) コロナ禍渦中の2022年は、「農学部創立100周年」且つ「10期生卒業60周年」の記念すべき年次でした。祝賀行事が翌年11月に延期され順延、「両慶事併せ祝する同期会」として開催することができました。

(式典～同期会～大学祭) 初日(11月18日)、100周年記念式典・講演会に出席(7人)、祝賀会は同期会と重なり欠席しました(宇大3C基金に些少寄付)。

式典終了後、宿泊ホテルで待望「第21回同期会」。冒頭、



物故会員を偲び黙禱、今後の会態様等確認(後述)。懇親交流会は、慶事・学窓懐古、近況報告に健康談義…と積もる話で夜半まで(各自酒量は激減)。

翌日(11月19日)、3ヶ月前開業「次世代型路面電車LRT」に乗車、母校に。大学祭「2023峰ヶ丘祭」各出展・森林科学科女子会展など見学、隔世の感。講堂・フランス庭園での記念写真。帰路、懐かしい「みんな餃子」駅ビル出店で会食。身体が一番と握手を交わし散会しました。

(同期会解散) 口は達者も足腰衰え80代半ば。健康・年齢等考慮、同期会諸行事は、今次有終の集い(交流会)をもって解散しました。会の歩み・会友の思い…諸々「最終同期会報告書」に収録。峰ヶ丘の絆・友情は永遠です。

(文責：山田)

## 13 農業経済学科クラス会 クラス会 (昭和46年3月卒業)

5年前に開催した古希の祝いを兼ねてのクラス会に続き、今回は、後期高齢者に達した節目を迎えての会を開催した(令和6年6月21日)。

場所は、JR宇都宮駅前の「ホテルニューイタヤ」で昼食会。卒業生44名のうち、物故者、行方不明者を除く約30名のうち、参加者は19名。

卒業後、53年ぶりに初めて顔を出した者もあり、全員から一人ずつショートスピーチをしてもらった。まだ、大学で非常勤講師をしていたり、会社経営を続けている者、登山やテニスなどのスポーツに明け暮れている者、とりわけ卓球の国際大会(自由参加)に渡航したり、小学生の卓球指導に精を出している者、野菜作りをして地元の道の駅に40種類以上を出荷している者、趣味の写真撮影、吹矢などにいそしむ者、極めつけは、映画の脚本作家を夢見て出筆活動続けている者などなど、個性豊かで多種多様な近況報告に、会は盛り上がり最高潮に達した。

思い起こすと、わがクラスメイトには、在学中からユニー



クな人材が揃っており、その個性、能力は70歳代後半に至って更なる進化を遂げている感覚を覚えた。

最後に、健康談議になり、大病を患ったが、運よく一命を取り留めて今は元気そのものという者も数名いた。人生100年時代に、この中の何人が100歳を越えられるだろうかとの声かけに、あいつとあいつは確実だろう、などと名指し合う一幕も。であれば、残り4半世紀をどう生きるか考えつつ、とりあえず80歳頃までを目途にクラス会を再開しようとの結論を得て、会は終了した。

(文責：伊藤 元久)

# 令和6年度理事会報告

令和6年6月15日(土)14時00分より、宇都宮大学峰ヶ丘講堂において令和6年度理事会が開催された。以下に項目別に会議内容を記載する。



## 1. 開 会

司会の福井えみ子常任理事より開会の挨拶があった後、令和4年9月から令和5年6月までの物故者94名に対しての黙祷が行われた。次に、峰ヶ丘会則では「第17条 理事会成立は構成員の過半数の出席を必要とする。」となっており、本日は構成員92名の内、出席者36名、委任者35名で過半数となっているので本会が成立していることが報告された。

## 2. 議長選出

慣例により、宇田靖峰ヶ丘同窓会長が選出され、会場からの拍手をもって承認された。

## 3. 会長挨拶

宇田会長から挨拶があり、先ず、昨年行われた100周年記念事業のことが紹介された。次に、今年度事業計画の中に100周年関連事業があるが、一つは同窓会独自の事業として記念碑の設置と記念植樹、もう一つは大学が行っているヒストリカルゾーン整備に対する資金協力のことであることが紹介された。それから、昨年の100周年記念式典の直前に開催された支部長意見交換会において、各支部とも会員同士の交流が減っていることが大きな課題であることが明らかとなり、連絡体制と合わせて名簿のあり方を改めて検討することが必要だと考えていることが述べられた。そして、これらに対するの審議、忌憚の無いご意見を頂けるようお願いされた。

## 4. 議 事

### (1) 会務報告

大久保達弘理事長から、下記について報告された。

- ①「学生支援制度」の実施  
学費支弁1件、農学部栄誉賞3件、農学部奨励賞4件、海外旅費支援1件。
- ②学生支援の実施  
今年度は実施しなかった。
- ③理事会及び常任理事会等の開催  
2023年6月17日に理事会を開催した後、常任理事会は月に1回程度の開催で、100周年記念事業の前は月に2回程度開催。
- ④「峰ヶ丘会報」の発刊  
2023年8月10日に第161号を発行。

- ⑤農学部への協力支援  
農学部長に30万円をお渡ししている。100周年記念事業への協力で、5,339,682円を支出。
  - ⑥大学サポート(石蔵保存)事業  
大学からの協力依頼がなかったため実施しなかった。
  - ⑦「教育研究支援制度(教員会員)」の実施  
農学部栄誉賞1件。
  - ⑧新入生へのお祝い品贈呈  
クリアファイルと図書カード贈呈
  - ⑨支部総会への常任理事の派遣  
茨城支部と福島支部に福井、岩手支部と山形支部に大久保、秋田支部に松井、宮城支部に香川、栃木県庁支部に宇田会長、大塚副会長、池田学長、山根学部長、大久保理事長が招待され出席。
  - ⑩「会員名簿」の発刊  
2023年9月25日に令和5年度版発行、紙媒体としては最後の発行。
  - ⑪大学諸行事の協力  
学位記授与式と入学式へ宇田会長が参加。
  - ⑫農学部創立100周年記念事業  
2023年11月18日に宇都宮駅前のライトキューブで記念式典開催。  
農学部創立100周年記念誌発刊、同窓時報のPDF化、親子3代表彰を2組、卒業50周年祝典事業として演習林のヒノキでお祝い箸を作成、式典での配布用として手拭いを作成、支部長意見交換会の実施、昭和初期の古い写真を引き伸ばしてパネルを作成。
  - ⑬入会促進事業  
1年生から3年生の会費未納者に対して入会案内を送付。
  - ⑭その他の行事  
従来農学部全体で行っていた新入生歓迎会を学科ごとで開催した。  
2024年5月15日に会計監査をしていただいた。  
質疑等は無かった。
- (2) 令和5年度決算報告及び監査報告  
守山拓弥常任理事から、一般会計の歳入の部では、その他の収入として、100周年記念誌の売り上げ収入や栃木県庁支部からの寄付があったこと、歳入の部では、人件費が100周年事業の準備等により多くなっていること、旅費では支部総会への旅費が増えていること、会報発行費は印刷費の高騰があり多くなっていること、新入生歓迎会費はクリアファイルを数年分同時に発注したため増額となっていること、基本財産特別会計では100周年記念事業として5,339,682円の歳出があったこと等、決算書(案)についての説明が行われた。  
以上について、令和6年5月15日に中山喜一監事と岡田武監事による会計監査が行われた。  
引き続き、中山喜一監事から、会計監査を実施した結果、帳簿、通帳等適正に処理されていたとの報告が行われた。  
**【質疑等】**  
茨城支部長の平林秀男副会長：何のために6千万もの

基本財産があって、こういったことでこんなに貯まっているのが疑問点である、また、何か目的があって貯めているのかについてお伺いしたい。

**守山常任理事**：私の知る限りでは、これまでの会費が積み立てられてこうなっていて、預けたものの利子がたくさん付いていた時もあったと聞いている、以前は黒字が続いていたが昨今はマイナスとなっている現状である。名簿の発行以外は何か目的があつての積み立てではないと考えている。

**宇田会長**：何か特別な目的があつて貯めた訳ではないが、かなり前から数千万という基本財産があつて、過去はこれには手を付けないという方針であったが、近年は会費収入が減り、支出が多くなっているため基本財産から支出している。何故貯められたのかについて正確には分からない。

**田中秀幸理事**：理事長を担当したことがあり、その当時は1億近い金額があつた。終身会費がどっと入ってきたことがあり、それで増えた。目的はない。ただし、その後は減っていくだろうと予想していた。10年か20年はしのげるだろうとの説明を受けていた。

**吉澤緑理事**：常任理事として会計を担当していたことがあり、ただ単に貯金してきたわけではなく、講堂改修の支援等をしたりして、同窓会としてメリハリをつけてきちんとしてきた。同窓会館を建てることを検討したこともあつたが、難しい問題があり、それには至らなかった。

その他の質疑等は無く、(1)と(2)が承認された。

### (3) 役員承認

大久保理事長から、副会長が交代して杉本宏之副会長となること、理事長が交代して房相佑理事長となること、森林の方から選出された石栗太先生が常任理事となることが伝えられ、承認された。

上記3名の新役員から挨拶があつた。

### (4) 令和6年度事業計画(案)

大久保理事長から下記の通り、事業計画(案)についての説明が行われた。

#### ①「学生支援制度」の実施

昨年と同様に行う。

#### ②学生支援の実施

100円カレー等を続けて行う予定。

#### ③理事会及び常任理事会の開催

常任理事会は月に1回程度行い、理事会は来年の6月を予定している。

#### ④「峰ヶ丘会報」の発行

秋に162号発行予定。

#### ⑤農学部への協力支援

母校協力費として30万円の支出。

#### ⑥「教育研究支援制度(教員会員)」の実施 農学部栄誉賞の副賞、海外旅費支援。

#### ⑦新入生歓迎会支援およびお祝い品贈呈

学生1名あたり1,000円を各学科へ支援およびクリアファイルの贈呈。

#### ⑧支部総会への常任理事の派遣

お声掛けいただければ常任理事を支部総会へ派遣することで対応する。

#### ⑨100周年関連事業

100周年記念碑および記念植樹、ヒストリカルゾーン整備事業支援。

記念碑については共同教育学部の建築デザインを担当している梶原先生にご協力いただきながら、材料としては地元の大谷石、芦野石、佐野の天明鋳物等をつかうことや設置場所等について検討していく。記念植樹については、日光植物園で育成された日光紅姫桜が一つの案として出されている。ヒストリカルゾーン整備には石蔵保存も含まれており、これらの予算として、1千万円を上限とするということが今回の提案である。

#### ⑩大学諸行事の協力

入学式、学位記授与式への会長出席。

#### ⑪入会促進事業

会費未納者に対して行う。

#### ⑫海外支部創設支援

現在、韓国で支部創設の動きがありこれを支援する。その他、農学部の卒業生がいる、タイ、中国、インドネシア等の同窓生に対しての支援も考えられる。

#### ⑬その他の行事

### (5) 令和6年度予算(案)

守山常任理事から、一般会計歳入の部の会費については入学者数214名の内70%の方に納入していただくことを想定して算出していること、歳出の部では通信費が高騰により増額されていること、旅費について支部総会への旅費が増えていること、会報発行費は印刷費の高騰により大幅に増額していること、学生支援経費には大学生協での食事提供等の学生特別支援事業の予算も含まれていること、新入生歓迎会費は各学科で行う歓迎会への支援になっていること、基本財産特別会計では、2,095,547円を一般会計へ繰り入れること、100周年関連事業(100周年記念碑および記念植樹、ヒストリカルゾーン整備事業支援)の上限支出額として1千万円を計上していること等、予算書(案)の説明が行われた。

(4)、(5)について質疑等は無く、承認された。

### (6) その他

特になく、議事が終了した。

退任となる大塚国一副会長と大久保達弘理事長から挨拶があつた。

## 5. 閉会

福井常任理事から閉会の挨拶があつた。その後、集合写真の撮影を行った。

終了後、16時から農学部大会議室において、池田学長、山根農学部部長、松澤前会長にも出席いただいて、懇親会が開催された。





## 支部長意見交換会議録

令和5年11月18日(土)農学部創立100周年記念式典に先立ち、支部長意見交換会が開催された。以下にその要約を記載する。

守山常任理事による開会挨拶  
宇田会長による挨拶

### ●山形支部

コロナでしばらく支部総会が出来なかったが、9月に4年振りに開催。会員約300名のうち28名が出席。例年30名前後。案内しても半分は返事が無い。県職員中心の運営となっている。県職員以外の把握、特に若い方へのアプローチが課題。

### ●宮城支部

会員250名のうち案内に対して返事があるのは100人前後、そのうち40人が会費を払っている。  
異動の情報を知らせていただけるよう、本部に協力いただきたい。

### ●岩手支部

会員80名で役員17名。会費徴収はない。総会時の来賓派遣は引き続き先生の学科持ち回りをお願いしたい。来賓の先生に総会資料を渡しており、それを見れば各支部の状況は把握できるはずなので、活用していただきたい。岩手県内の同窓生の情報を本部に伝えるとか、会報やホームページへの協力は可能な限りしていきたい。

### ●秋田支部

名簿上会員223名だが170～180名しか把握できていない。特に若い人の情報が入ってこない。年に1回くらいは支部長宛に、各県出身の卒業生が地元に戻っているのか情報がほしい。秋田県は国立大学に農学部がないこともあって同窓生が多く、同窓会事務局は県職員が各科の出身者の持ち回りでやっている。若い人の情報が入ってこない中でも、人づてや新聞記事などから卒業生の情報を得ている。

### ●青森支部

支部長を引き受けた10年前に同窓会を開催したが出席したのは8人。その2年後ぐらいに企画したら人数が少なく、その後やっていない。特に若い人は出席してもらえない。大学で統一してやるというような話があった。もうそういう時代かもしれない。ただ若い人の出席はあまり期待できないと思う。

### ●北海道支部

各県と同じ状況。同窓生は名簿上数十人いることになっているが、総会出席者は10数人くらい。平日夜に開催していたが、札幌以外の同窓生が出席できるよう土曜日の昼に変えて数回開催したが、出席者はほぼ変わらなかった。

コロナのまん延や名簿自体も分からなくなったりしてここ数年総会を開催していない。新しい人を把握しづらくなっていて難しいこともあるが、なんとか継続したい。

### ●茨城支部

10年ほど前の総会は、会員約700名のうち出席が40～50人だった。80歳以上の方も結構いた。コロナで3年間総会はなく、今回開催したら出席者は36、7名くらい。たまたま幹事に女性が3名おり、友人を誘ってくれた結果女性が6、7名出席したので非常に盛り上がった。今後は、若い方(女性)に継続して幹事をやってもらって、たくさん出席してもらおう作戦にしようかと思っている。個人情報保護もあるが、卒業生が本県にどの程度いるのか教えてもらえるとありがたい。

### ●東京支部

元々は農水省等の公務員関係の方が多く、関東農政局などに事務局をやってもらっていた。近県在住の東京通勤者も東京支部に在籍していたので、会員は非常に多く先輩方が引っ張って行ってくれていた。しかし、関東農政局が平成12年にさいたま新都心に移転してから、事務局機能が弱くなり、また会員も高齢化し休眠状態。そんな中で支部長を引き継ぐタイミングを迎えているが、皆さんの話を聞き、なんとか再構築して少しでも活性化できるように考えていきたい。

### ●栃木県庁支部

名簿上は会員351名。県庁各部署でそれぞれが活躍している。宇大の先生方には、県の審議会、各種コンクールの審査委員長、共同研究等で様々な貢献をいただいている。以前より少しずつ宇大出身者の採用が減っているように感じる。コロナの関係で3年間活動がなかったが、4年ぶりくらいに暑気払いを開催した。若い人は入庁して3年間飲み会がない状況だったので、先輩の話を聞いて楽しかった、横のつながりができた等の思いもよめ反応があった。

### ●福島支部

名簿では会員410名。うち4割の人とはがき、メールでコンタクトが取れている。総会出席者は例年40～50名。今年は残念ながら28名で県職員以外は高校の先生と自営業者が各1名。高齢化しており、J A、市町村、税務署職員、若い会員、女性がたまに来るが、1回限りになってしまう。若い人が出席できるような環境を整えていく必要がある。新卒者の情報を教えていただきたいことと、紙による同窓会報は唯一の繋がりなので継続していただきたい。

### ●長野支部

320名程の会員。過去は毎年総会をやっていたが、最近2年に1回、この4年間は開催なし。総会出席者は、昭和の終わり頃には約50人だったが、コロナ前の平成30年は19名で平成以降の卒業生は2名のみ。往復はがき代の負担軽減のため、平成28年に意向調査をし、約8割は通知はいらぬとの返事だった。特に若い人は関心がないようだ。幹事を担っている県職員や県全連の職員に宇大卒業生が少なくなっているが、工夫しながら何とか支部の火を消さないようしていきたい。

●千葉支部

会員は名簿上約三百数十名。直近の総会は平成31年で出席者13名。各科に幹事を1名おいて持ち回りで担当してきたが、年齢等の問題から幹事を辞退される方が出てきた。皆さんの話を聞き、千葉支部もまた総会を開きたいと思った。県庁の農業工学系職員採用では定員割れの状況にあるので、是非送り込んでもらいたい。

●三重支部

名簿上は37名。平成の初めに会合を2、3回開いたが、その後は開催せず。県内在住者に2年に1回程度名簿を送り、そこからの口コミで参加を呼び掛けている。自分のこれまでの経験から先輩と後輩の繋がりは重要と考えており、県内の在住者の新しい名簿が出来たら送って欲しい。他の県の支部の状況を聞き、三重県もこれから活動していきたいと思った。

●石川支部

名簿上は会員約60名で、県庁職員が多く、次いで学校の先生、市町村職員、農業団体職員。毎年7月第一土曜日に金沢市内で総会と懇親会を行ってきたが、ここ3年はコロナ禍で休会。例年10～15名出席だが、今年は9名で年々少なくなっている。石川支部では学芸学部と工学部の卒業生にも声かけしている。高齢化と参加者の減少が課題。若い人の就職状況を支部に提供いただければありがたい。

●富山支部

会員数は名簿上66名。県職員、高校の先生、農業団体、民間。総会の出席者は10名以下というのが現状。高齢により常連さんの出席が少なくなる一方、若い世代、40代50代の方はなかなか参加してくれない。卒業生の把握ができない。かつて出席者が多かったときは大学から先生に来ていただいたが、またお声かけできる程度に出席者を増やしたい。県内に戻りたい学生の話があれば就職あっせん等協力する。

●沖縄支部

現在の会員数は約50名で、この内20、30代の若い世代が20名近い。総会ということではなく、懇親会が総会みたいなものになっており、農学部だけでなく、国際学部や教育学部の卒業生も入れてにぎやかに実施している。毎年ではなく、最近では2、3年に1回程度で20人ぐらいが参加。同窓会を一つにするとのことだが、峰ヶ丘会報は唯一の情報源なので、何らかの形で継続していただきたい。

大久保理事長による挨拶

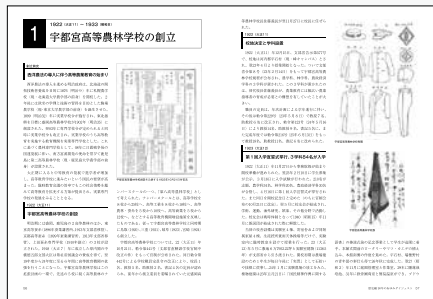


宇都宮大学農学部 創立百周年記念誌を追加販売いたします

昨年の農学部創立百周年記念式典に合わせて作成した「宇都宮大学農学部創立百周年記念誌－同窓会報CD付き」を、好評につき追加販売いたします。「写真で見える農学部100年の歩み」から始まり、「90年の歩みダイジェスト」、「近10年の歩み」、「農学部の資料（現在の研究室と専門分野、進路状況、講義カリキュラム、同窓生の所在県データなど）」から構成されております。同窓生からご寄稿いただいたコラムも掲載し、大変読みやすく、懐かしい写真を多く盛り込んだ記念誌です。100年の歴史と農学部の今がわかる内容になっており、既にご購入いただいた方からも大変好評です。

また、長年に渡り発行してきた、峰ヶ丘同窓時報・峰ヶ丘会報を、電子データ（PDF）化いたしました。記念誌にはこれら会報のPDFデータの入ったCDを同封しています。

今回は、この記念誌を100冊限定で、1冊5,000円にて販売いたします。購入希望の方は、下記の連絡先（同窓会事務局）へ、メールまたはお電話にてご連絡ください。支払いと受け渡しの方法につきましては、購入希望者の方に別途お知らせいたします。



100周年記念誌「90年の歩みダイジェスト」の一部

電子データ化した同窓時報

購入申込先：宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会 事務局（横瀬）  
E-メール：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp  
TEL/FAX：028-649-5400（月・水・金 9：00～17：00）

## ●千葉支部

会員は名簿上約三百数十名。直近の総会は平成31年で出席者13名。各科に幹事を1名おいて持ち回りで担当してきたが、年齢等の問題から幹事を辞退される方が出てきた。皆さんの話を聞き、千葉支部もまた総会を開きたいと思った。県庁の農業工学系職員採用では定員割れの状況にあるので、是非送り込んでもらいたい。

## ●三重支部

名簿上は37名。平成の初めに会合を2、3回開いたが、その後は開催せず。県内在住者に2年に1回程度名簿を送り、そこからの口コミで参加を呼び掛けている。自分のこれまでの経験から先輩と後輩の繋がりは重要と考えており、県内の在住者の新しい名簿が出来たら送って欲しい。他の県の支部の状況を聞き、三重県もこれから活動していきたいと思った。

## ●石川支部

名簿上は会員約60名で、県庁職員が多く、次いで学校の先生、市町村職員、農業団体職員。毎年7月第一土曜日に金沢市内で総会と懇親会を行ってきたが、ここ3年はコロナ禍で休会。例年10～15名出席だが、今年は9名で年々少なくなっている。石川支部では学芸学部と工学部の卒業生にも声かけしている。高齢化と参加者の減少が課題。若い人の就職状況を支部に提供いただければありがたい。

## ●富山支部

会員数は名簿上66名。県職員、高校の先生、農業団体、民間。総会の出席者は10名以下というのが現状。高齢により常連さんの出席が少なくなる一方、若い世代、40代50代の方はなかなか参加してくれない。卒業生の把握ができない。かつて出席者が多かったときは大学から先生に来ていただいたが、またお声かけできる程度に出席者を増やしたい。県内に戻りたい学生の話があれば就職あっせん等協力する。

## ●沖縄支部

現在の会員数は約50名で、この内20、30代の若い世代が20名近い。総会ということではなく、懇親会が総会みたいなものになっており、農学部だけでなく、国際学部や教育学部の卒業生も入れてにぎやかに実施している。毎年ではなく、最近では2、3年に1回程度で20人ぐらいが参加。同窓会を一つにするとのことだが、峰ヶ丘会報は唯一の情報源なので、何らかの形で継続していただきたい。

## 大久保理事長による挨拶

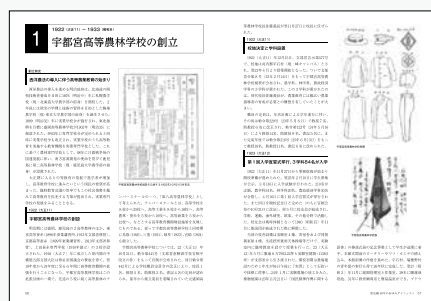


## 宇都宮大学農学部 創立百周年記念誌を追加販売いたします

昨年の農学部創立百周年記念式典に合わせて作成した「宇都宮大学農学部創立百周年記念誌－同窓会報CD付き」を、好評につき追加販売いたします。「写真で見える農学部100年の歩み」から始まり、「90年の歩みダイジェスト」、「近10年の歩み」、「農学部の資料（現在の研究室と専門分野、進路状況、講義カリキュラム、同窓生の所在県データなど）」から構成されております。同窓生からご寄稿いただいたコラムも掲載し、大変読みやすく、懐かしい写真を多く盛り込んだ記念誌です。100年の歴史と農学部の今がわかる内容になっており、既にご購入いただいた方からも大変好評です。

また、長年に渡り発行してきた、峰ヶ丘同窓時報・峰ヶ丘会報を、電子データ（PDF）化いたしました。記念誌にはこれら会報のPDFデータの入ったCDを同封しています。

今回は、この記念誌を100冊限定で、1冊5,000円にて販売いたします。購入希望の方は、下記の連絡先（同窓会事務局）へ、メールまたはお電話にてご連絡ください。支払いと受け渡しの方法につきましては、購入希望者の方に別途お知らせいたします。



100周年記念誌  
「90年の歩みダイジェスト」の一部



電子データ化した  
同窓時報

購入申込先：宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会 事務局（横瀬）  
E-メール：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp  
TEL/FAX：028-649-5400（月・水・金 9：00～17：00）



会 務 報 告

1. 支部総会等の開催

2023. 05. 11 茨城支部総会  
 2023. 08. 26 岩手支部総会  
 2023. 09. 16 山形支部総会  
 2023. 11. 11 福島支部総会  
 2023. 12. 02 秋田支部総会  
 2024. 01. 27 宮城支部総会  
 2024. 01. 30 栃木県庁支部総会

2. 理事会及び常任理事会等の開催

2023. 06. 17 令和5年度理事会開催  
 2023. 07. 24 第1回常任理事会  
 2023. 08. 28 第2回常任理事会  
 2023. 09. 12 第3回常任理事会  
 2023. 09. 27 臨時常任理事会（1回目）  
 2023. 10. 06 第4回常任理事会  
 2023. 10. 27 臨時常任理事会（2回目）  
 2023. 11. 14 第5回常任理事会  
 2023. 12. 08 第6回常任理事会  
 2024. 01. 24 第7回常任理事会  
 2024. 02. 19 第8回常任理事会  
 2024. 03. 21 第9回常任理事会  
 2024. 03. 令和5年度宇都宮大学同窓会連絡協議会中止  
 2024. 04. 24 第10回常任理事会  
 2024. 05. 22 第11回常任理事会

3. その他の行事

2024. 03. 22 学位記授与式  
 2024. 04. 05 入学式  
 2024. 04月～05月 新入生歓迎会(各学科ごとに開催)  
 2024. 05. 15 会計監査

4. 「峰ヶ丘同窓会報」の発行

2023. 08. 10 第161号発行

5. 「会員名簿」の発刊

2023. 09. 25 令和5年度版発行

6. 支援制度

教員教育研究支援制度（農学部栄誉賞） 計1件  
 学生支援制度  
 （学費支弁1件・農学部栄誉賞3件・農学部奨励賞4件・  
 海外旅費1件）  
 計9件  
 以上会務報告

会長委嘱理事（令和6年度）

理 事 長 房 相佑（平5院農）  
 常任理事 生物資源科学科 福井えみ子（昭62院畜）  
 香川 清彦（平3農）  
 応用生命化学科 金野 尚武（平16生応化）  
 農業環境工学科 守山 拓弥（平16院環）  
 農業経済学科 福田 竜一（平8経）  
 森林科学科 ○石栗 太（平9森）  
 （○印：新任）

令和6・7年度役員名簿

：令和6年6月現在

（ ）内：昭和・平成・令和3月卒

会 長 宇田 靖（昭45化）  
 副 会 長 杉本 宏之（昭59院畜）  
 後藤 達夫（昭46経） 福島支部長  
 依田 隆夫（昭56開） 東京支部長  
 大嶋 稲良（昭51開） 群馬支部長  
 平林 英男（昭51農） 茨城支部長  
 鈴木 英雄（平2林） 埼玉支部長  
 柴田 和幸（平2化） 栃木県庁支部長  
 理 事 長 房 相佑（平5院農）  
 常任理事  
 福井えみ子（昭62院畜） 石栗 太（平9森）  
 香川 清彦（平3農） 守山 拓弥（平16院環）  
 福田 竜一（平8経） 金野 尚武（平16生応化）  
 理 事  
 高橋 滋（昭48農） 和久井保彦（平13経済）  
 木村 陽一（昭50農） 田所 広起（平14経済）  
 小笠原 勝（昭54農） 山口 直紀（平17経済）  
 植木与四郎（昭58農） 菅原 邦生（昭48畜）  
 川原 直人（平7生植） 吉澤 緑（昭50畜）  
 森島 正二（平15生植） 増山 秀人（昭62畜）  
 鷲尾 一広（平7生応生） 星 一美（平11生動）  
 上田 正人（平8生応生） 田村かおる（平26生動）  
 貝賀 信保（平9生応生） 小川 正順（昭49開）  
 九石 寛之（平11生応生） 福田 保（昭50開）  
 小松 茂夫（昭45林） 青柳 俊明（昭61開）  
 舘野 知（昭53林） 五月女寛行（平7環）  
 斉藤 倫明（昭55林） 大久保尚彦（平12環）  
 津布久 隆（昭58林） 渡辺 雅人（平15環）  
 篠崎 武彦（平7森） 鈴木なずな（令2環）  
 潮田 健司（平10森） 田中 秀幸（昭43化）  
 木野本 亮（平12森） 杉田 和之（昭50化）  
 小川 靖（平13森） 下山 雅人（昭52化）  
 平塚 俊郎（昭49経） 田崎 公久（平10生応化）  
 関川 元樹（昭50経） 田村 倫子（平14生応化）  
 半田 守男（昭57経） 坪井 美和（平30生命）  
 梅山 栄司（昭60経） 小林菜々恵（令3生命）  
 黒後 貞夫（平7経済） 小川 眞男（昭44総）  
 監 事  
 渡辺 正夫（昭51化） 岩上 真美（平8森）  
 津谷 好人（昭45経）  
 顧 問  
 学 長 池田 幸  
 学部長 山根 健治  
 竹永 博（昭40工）  
 松澤 康男（昭41農）  
 大塚 国一（昭48開）

## 支部長一覧

支部未加入の方、転居等で支部が変わられた方は、支部長へ御一報をよろしくお願いします。

支部名	卒年	氏名	電話番号
北海道	昭53林	高橋 伸吉	
青森	昭39林	小野 隆一	
秋田	昭49農	保坂 進	
岩手	昭44経	小池 俊吉	
宮城	昭54林	勝又 敏彦	
山形	昭46農	田中 順一	
福島	昭46経	後藤 達夫	
新潟	昭40工	春日 健一	
長野	昭52農	本井 治	
群馬	昭51開	大嶋 稻良	
栃木県庁	平2化	柴田 和幸	
宇大	平5院農	房 相佑	
栃木県高等学校職員連絡会	昭62林	高野 寿映	
塩谷	昭33林	田鹿 元貞	
茨城	昭51農	平林 英男	
千葉	昭56開	杉野 宏	
神奈川	昭43工	平野 昭雄	
東京	昭56開	依田 隆夫	
埼玉	平2林	鈴木 英雄	
静岡(代)	平29森	大高 諒大	
山梨	昭25林	武川 仁	
岐阜	昭50経	石樽 正治	
三重	昭34林	望月三佐男	
和歌山	昭49開	中尾 健	
奈良	昭48林	住友 重美	
京都	昭49林	松下 正徳	
石川	昭43農	山辺 守	
富山	昭55経	古瀬 悟	
兵庫			
山口	昭48農	福田昭二郎	
鳥取	昭34経	居吹 直文	
岡山	昭50経	福田 博幸	
高知			
福岡	昭45開	高宮 清	
佐賀	昭50化	合瀬 健一	
長崎			
熊本	昭48畜	中尾 悦郎	
大分	昭41総	江無田哲生	
宮崎	昭44林	土持 勲	
沖縄	昭43化	渡嘉敷義浩	

## お悔やみ

下記の方々のご冥福をお祈り致します。  
令和5年7月～令和6年9月現在までの物故者  
※事務局で把握しているものの掲載です。

### 農学科

農22：富川 敏夫  
農25：尾田 利雄  
農32：真下 慶治  
農37：中村 嘉夫  
農38：齋藤 一三  
農44：原 寛恒  
農平元：二宮 信明

農23：渡辺 昭司  
農31：津久井恭夫  
農34：安田順次郎  
農38：東海 俊夫  
農39：河原田忠信  
農48：菊地 修

### 林学科

林28：白石 嘉正  
林30：冲 洸三  
林31：正木 晋  
林38：佐藤 俊正  
林34：磯 利彦  
林41：荒井 賛  
林51：吉野 早苗

林29：野澤 達郎  
林30：手塚 上  
林35：中川 淳夫  
林38：氏家 捷利  
林38：紺野 将治  
林47：佐藤 壽志  
林51：神野 悦夫

### 農業経済学科

経22：田中 滋  
経23：箱崎 光平  
経31：生井謙一郎  
経37：高橋 勝平  
経53：佐々木幸雄  
経平14：竹内 亮二

経23：岩岡 弘  
経26：北條 典彦  
経33：小島 延介  
経39：二瓶 清紀  
経53：浅野 茂

### 獣医畜産学科

獣20：中根 淑夫  
獣24：廣瀬 正  
獣26：大根田貞夫  
畜40：河野宗太郎  
畜40：平田 拓雄

獣23：佐々木宏樹  
獣25：大倉 榮  
畜33：中嶋 廣正  
畜40：岩瀬 邦男  
畜46：伊藤 益男

### 農業工学科

土19：岡田 敏郎  
土23：石井庄次郎  
工29：高瀬 一男  
工30：牧田今朝男  
工34：関口 義夫  
工36：鱒淵 清  
工38：菊池 紀邦  
開46：早坂 武昌  
開47：進木 裕雅  
開51：三原 正光

±20-21：山田 光夫  
土25：渋谷 亨  
工29：黒須 靖  
工32：三保野 廣  
工34：渡辺 利男  
工37：篠原 晃重  
工39：牛島 眞一  
開47：山下 博  
開47：神保 政美

### 農芸化学科

化24：小林 昭平  
化30：瓦井 宏  
化33：其田 権二  
化39：渡辺 泰之  
化42：大村 裕頭  
化43：箱山 清夫

化25：吉川吉之助  
化30：竹越 俊雄  
化34：岡川 尚道  
化42：福田 誠  
化43：加藤 好武

### 総合農学科

総30：麦倉 仙三  
総35：田口 嘉美  
総42：高橋 廣美

総32：石嶋 宏子  
総39：中野 康昭

### 名誉教授

渡邊 和之  
五味仙衛武  
志賀 徹

前田 安彦

### 元教員

野村 浩士  
暉峻 衆三  
高橋 衛

富田平四郎



## お祝い

このたびは、おめでとうございます。

## 叙 勲

2021	1月1日	瑞宝双光章	大和田彦吉	昭34経
2022	7月22日	瑞宝小綬章	山下 博	昭47開
2022	12月1日	瑞宝小綬章	渡辺 泰	昭32農
2023	3月1日	瑞宝小綬章	秋場 福廣	昭33総
2024	春	瑞宝小綬章	中島 敏之	昭50経

## 表 彰

令和2年 第73回都民の消防官・予防業務功勞 内谷 公代 平3林

## 昇 任

農学部教授	青山 真人
農学部教授	逢沢 峰昭
農学部准教授	田村 匡嗣

## 慶弔についてのご連絡

峰ヶ丘同窓会会員の慶事および弔事の際には、会員の方々からのご連絡に基づいて対応しております。慶弔事が発生しました際には、下記事務局までご連絡ください。

## I. 慶事（褒賞、叙勲等）の場合

1. 受章者、受賞者の氏名、年齢、卒業年次、学科、住所、電話等
2. 受章、受賞の種類（褒賞、叙勲その他の賞の種類）
3. 受章、受賞の日時

なお、叙勲のご連絡は、新聞などに掲載されますが、学歴まで記されておられませんので、事務局で判断し掲載することができません。関係各位からのご連絡により、ご報告とさせていただきます。何とぞご了承のほどをお願いいたします。

## II. 弔事の場合

会員、会員以外の顧問・元顧問、現職教員、元教員が対象となります。

1. 逝去者の氏名、逝去日、卒業年次、学科
2. ご遺族（喪主）の氏名（逝去者との続柄）
3. 通夜・告別式の日時、場所

なお、事務局宛にご連絡がない場合、当方からの郵便物の送付を中止できませんので、何とぞご了承のほどをお願いいたします。

●連絡先：峰ヶ丘同窓会事務局  
TEL：028 (649) 5400  
E-mail：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp  
月・水・金 9：00～17：00

## 寄 贈 図 書

「わくわく野山に虫を追う

ーとちぎの森・自然公園昆虫記ー

稲泉 三丸

## 昨年度退職の教員

令和6年3月31日をもって、以下の教員が退職されました。

- ・秋山 満 ・関本 均 ・飯塚 和也
- ・大久保達弘

## 今年度定年退職予定の教員

令和7年3月をもって、以下の教員が退職されます。令和7年3月までの連絡先は、以下の通りです。

- ・平井 英明：生物資源科学科 028-649-5423  
hirai@cc.utsunomiya-u.ac.jp
- ・齋藤 潔：農業経済学科 028-649-5513  
saitok@cc.utsunomiya-u.ac.jp
- ・高橋 行継：附属農場 0285-84-2424  
takahashi@cc.utsunomiya-u.ac.jp

次回会報発行日程  
原稿締め切り日のお知らせ

同窓会では皆様からの情報をお待ちしております。次号の会報は、2025年10月に発行する予定です。原稿の締め切りは2025年7月末となりますのでご了承ください。宜しくお願いたします。

## お 詫 び

訂 正

宇都宮大学農学部創立100周年記念式典において配布したパンフレット、写真2枚（P.5および裏表紙の写真）

誤：昭和26年林学科卒 齋藤 勝男 氏より提供  
正：昭和41年林学科卒 齋藤 勝男 氏より提供  
大変失礼いたしました。訂正してお詫びいたします。

## 編 集 後 記

本年度から峰ヶ丘会報の編集を行うことになりました。前回、常任理事をしていたときは会計の担当だったので、初めての編集作業でした。頂いた原稿のチェックを進めていますと、パンデミックの間に開催できなかった、クラス会等が再開されていて、大変嬉しく思いました。クラス会など開催されましたら、ぜひ寄稿をお願いいたします。（文責：石栗）

# こ な こ と

## やっています (その18)

### 農芸化学プログラム

農芸化学プログラムでは、植物、動物、微生物、そして食品に関わる課題について物質的視点や機能的視点から教育と研究を展開しています。13名の教員の所属は、農学部応用生命化学科と生物資源科学科、森林科学科、バイオサイエンス教育研究センターとなります。学生数はM 2が25名、M 1が26名です。教員と学生が取り組む諸々の活動から、バイオサイエンス教育研究センターの謝肖男准教授に関する内容と、本学のアフリカ展開力プログラムを利用し交換留学した学生に関する内容をご紹介します。

謝准教授は植物が生産・分泌する二次代謝産物であるストリゴラクトンの化学および生理学に関する研究を行い、新奇ストリゴラクトンの単離・構造解析と植物界における分布を解明してきました。ストリゴラクトンは根圏では根寄生植物の種子の発芽と、共生菌であるアーバスキュラー菌根菌の菌糸分岐を誘導します。一方、植物体内では地上部の枝分かれを制御する新しい植物ホルモンとして機能します。現在までに化学構造が決定されている42種類のストリゴラクトンの約8割にあたる33種類を単離・構造決定しています。これらの成果を発表した論文の引用回数は非常に多く専門分野において大変注目されています。これらの研究で培った機器分析の技術を生かして、本学が参画する地域イノベーション戦略支援プログラムの機器共用化事業の一環として、残留農薬の分析、水道水の安全検査、違法ドラッグの検査およびメソッド開発、植物や食品に含まれている脂質成分の定量解析、果物に含まれる香り成分の同定などを行ってきました。さらに天然物に関する専門知識を生かした情報監修者として、日本テレビの満天☆青空レストラン、沸騰ワード10、1億3000万人のSHOWチャンネルなど、年間10以上の番組の制作に協力しています(写真1)。

学生の活動ではプログラムのM 1学生が2月に3週間、アフリカのケニアに交換留学しました(写真2)。ケニアの大学でお世話になった教授と事前にオンラインで研究計画を立て、アフリカの発酵食品についてインタビューや成分分析を行ったとのこと。休日はナショナルパークやマサイマーケットといった観光も楽しみ刺激的な毎日を過ごしたようです。事前のワクチン接種やコミュニケーションなどの不安要素もあったと思われそうですが、本人が研究活動や授業以外にも貴重な体験の機会を得ることができ大学院に進学して良かったと語っていたのが印象に残っています。



写真1:「満天☆青空レストラン」にて宮川大輔氏とのショット



写真2:短期交換留学中、ケニアの大学での1シーン

(文責:農芸化学プログラム 謝 肖男)

フアイレンツ用中心点